

二十四輩順拜圖會

越中越後

三

4波  
1810  
/0-3



門八波  
號 1810  
卷 10-3

金皇本

二十四輩順拜圖會卷之三

目錄

○越中之部

善徳寺

本願寺用本を代出凡圖

超願寺

慈恩寺

東弘寺

持專寺

徳法寺

○越後之部

親市振の溪

宝坂寺

舟波園

勝興寺

極性寺

願海寺

三本柳

大雲寺

人形山

五箇山

天極石

名石の海

御上人書と讀

順徳帝御幸

極成寺

淨永寺

西性寺

巨多之濱  
光源寺  
川城名号  
東流御坊

國分寺  
奉誓寺  
常敬寺

大場村御田跡  
淨興寺  
性宗寺

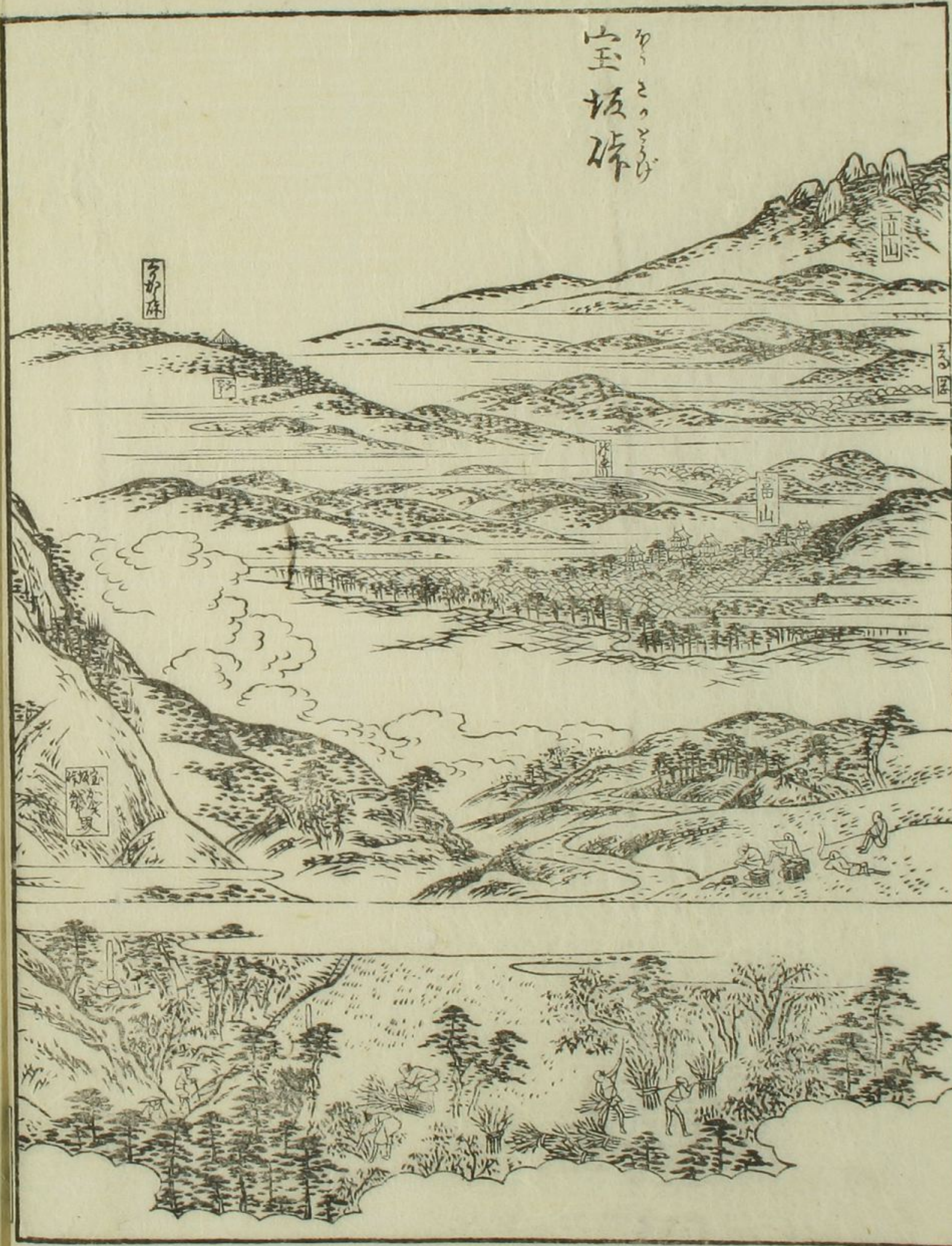
以上



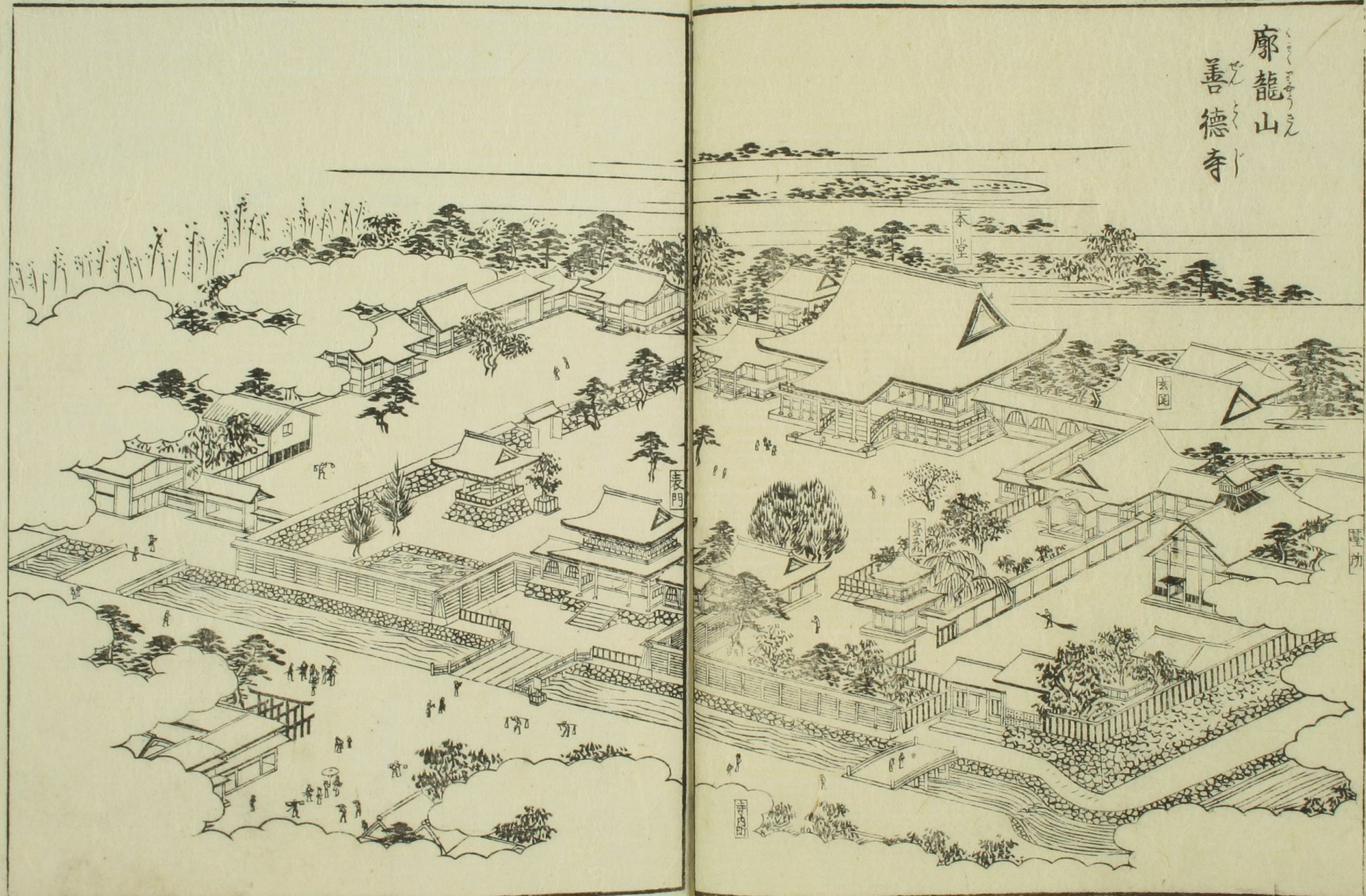
第十四章 順拜圖會卷之三

城中國

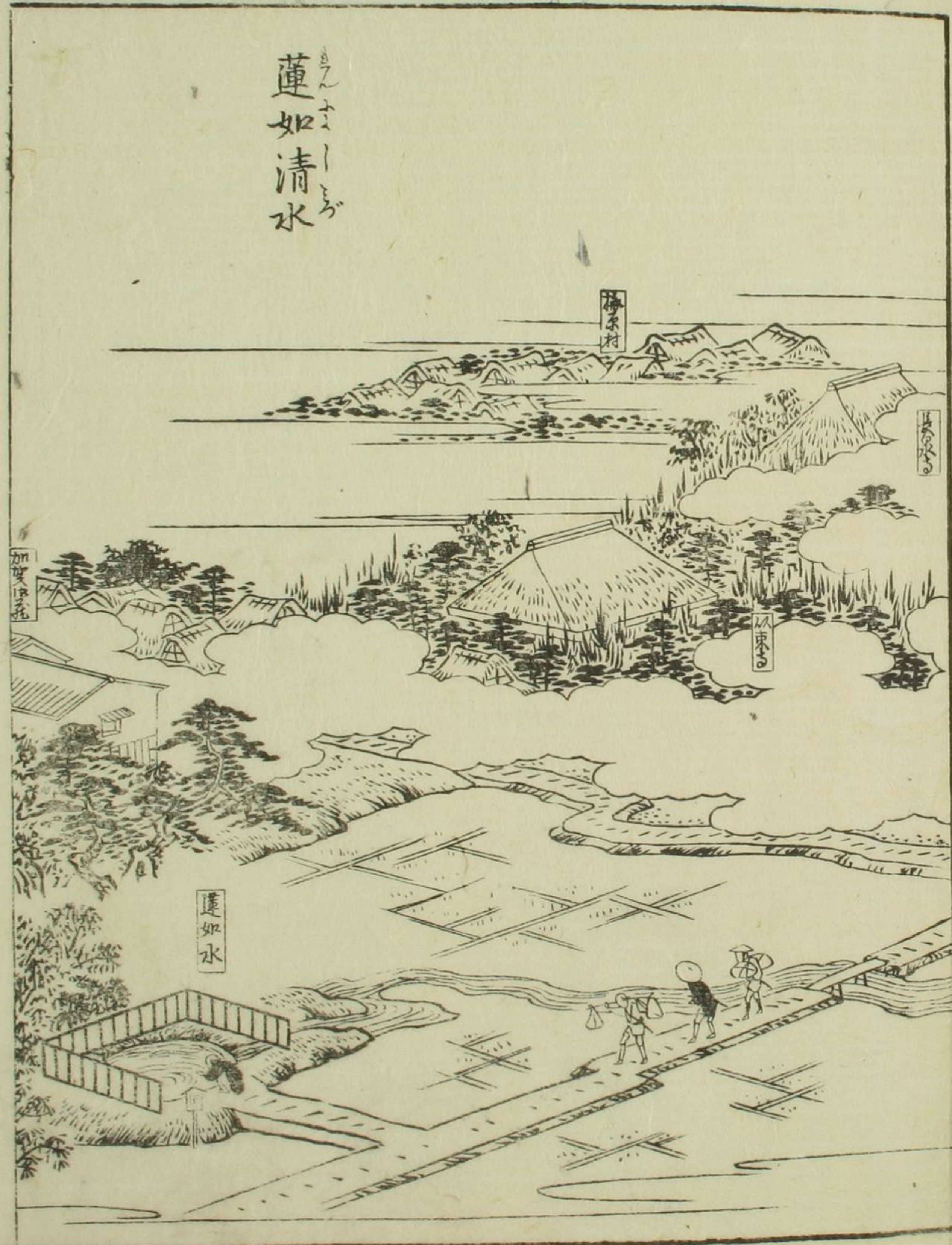
加賀の全領より城中今石部まで七里半西國の境と後馬場といふ藤並山俱梨  
伽羅峠の峠の麓ありけり昔永承二年本曾義仲少圓と義兵を  
揚げ都として討奪する平家十室の軍と争ひて  
右の方と源氏分峯と唱へて即義仲の陣石の法あり垣生の八幡宮を  
義仲と本曾と争ひて御書と書りし處は又他め平家退討を誘  
らむるの巻と本曾の御書と今又修業せりといひ傳へ  
廓龍山と名徳寺 系他寺也 加賀の國二侯の宿より城中後光と傳て杉  
八里城跡小たりけり城中入るは俱梨伽羅峠と城は二里雜  
不といふ茶畑のどけり岩間と通ち大雑石の泥路あり  
當寺の本報寺并八世蓮如上人文明三年城系吉修し御在位乃砌  
草創あり本阿弥陀如来の佛 十室名号 洞山聖人 聖人御親を  
七高僧御親 蓮如上人 其の靈室教品これを略し 出地の水は谷あり  
て多に綿名の敷あり名付て念佛谷といふ又西に流るるは  
後光を祖代名づけて燈明ヶ淵といふ 天心の始め織田信長本報寺と  
并指の砌乃後城跡池邊石山麓城は法興寺に備きあり其功法



廓龍山  
善德寺



蓮如清水



祐善塚

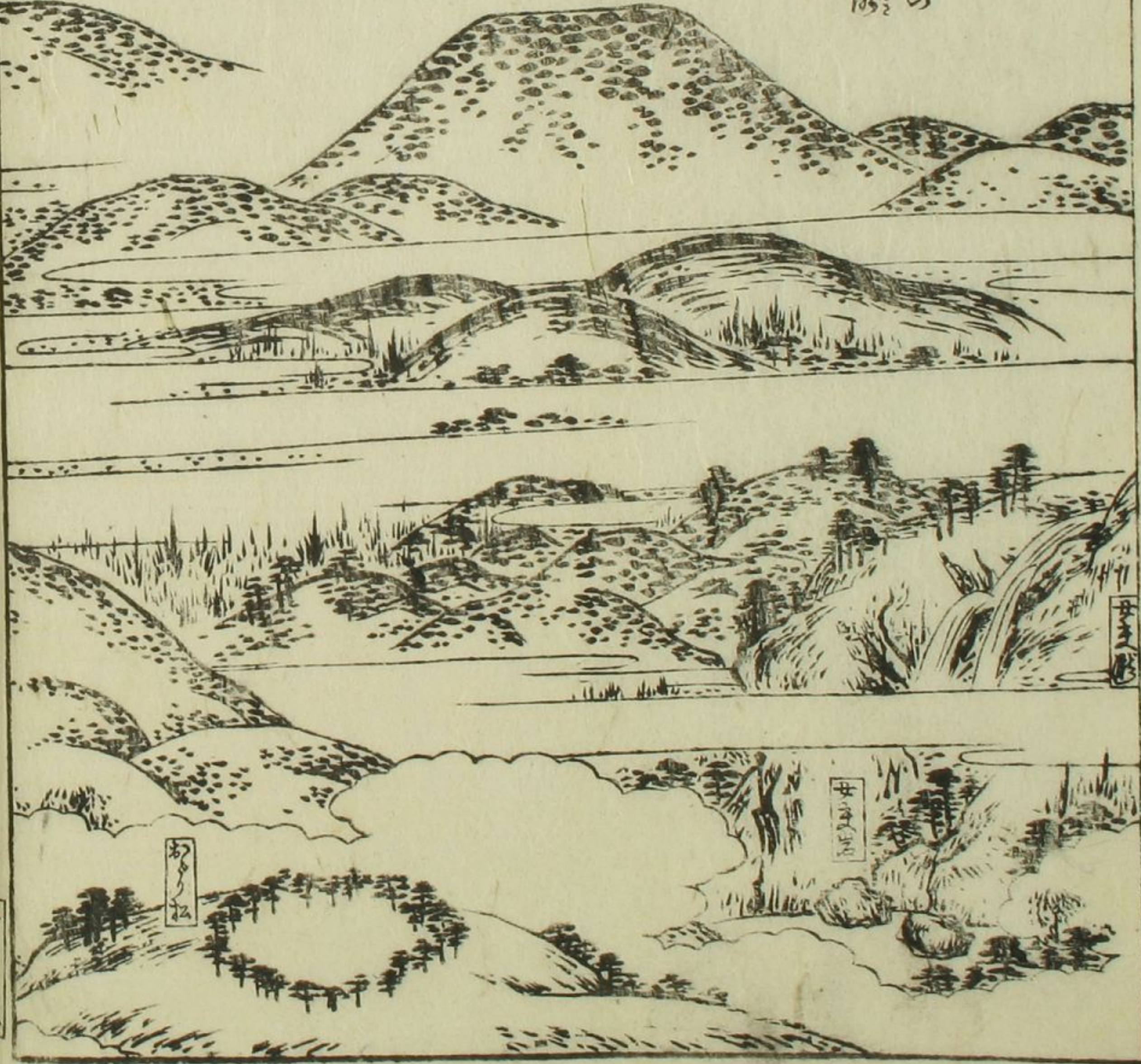




人形山

女まけの若松村あり雌雄の  
 二山ありはなる山人のつるは  
 夜の雌雄おまへては月夜の  
 とぬをりたぬ女まけのなま  
 くと又女まけありもまけ  
 男まけをひまけるは夜まけ  
 まけとつる  
 額松の松の村の山の上の  
 まけの松の葉ありて其ま  
 人のまけまけ  
 け林を村より三丁斗山腰  
 二ツの水なりを酒泉と  
 其二ツの酒泉と別一ツと  
 酒泉より酒泉の色白く  
 してまけり酒泉の色白  
 りまけりて酒の香あり  
 まけりて酒を飲  
 碎ひて例る  
 たり

腰山

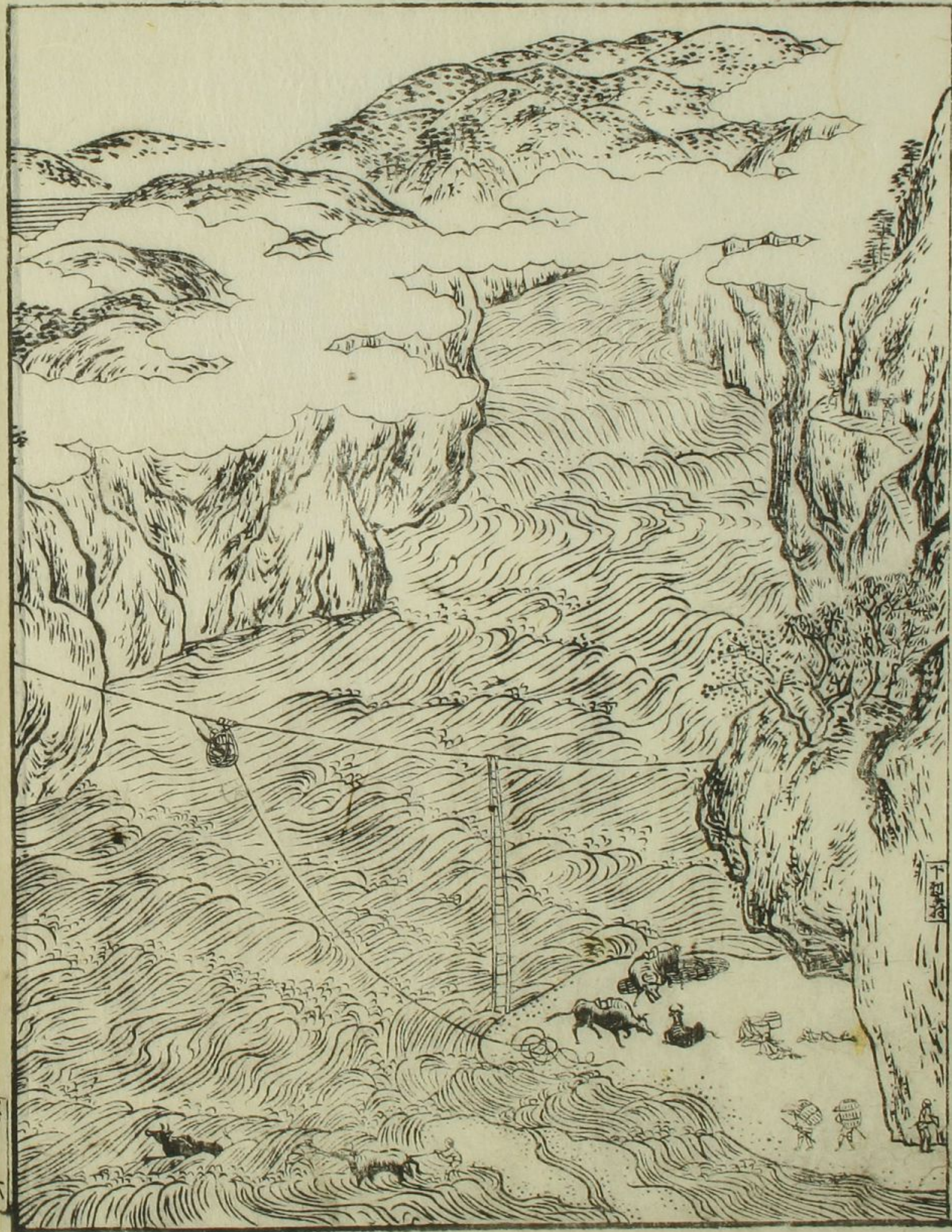


人形山





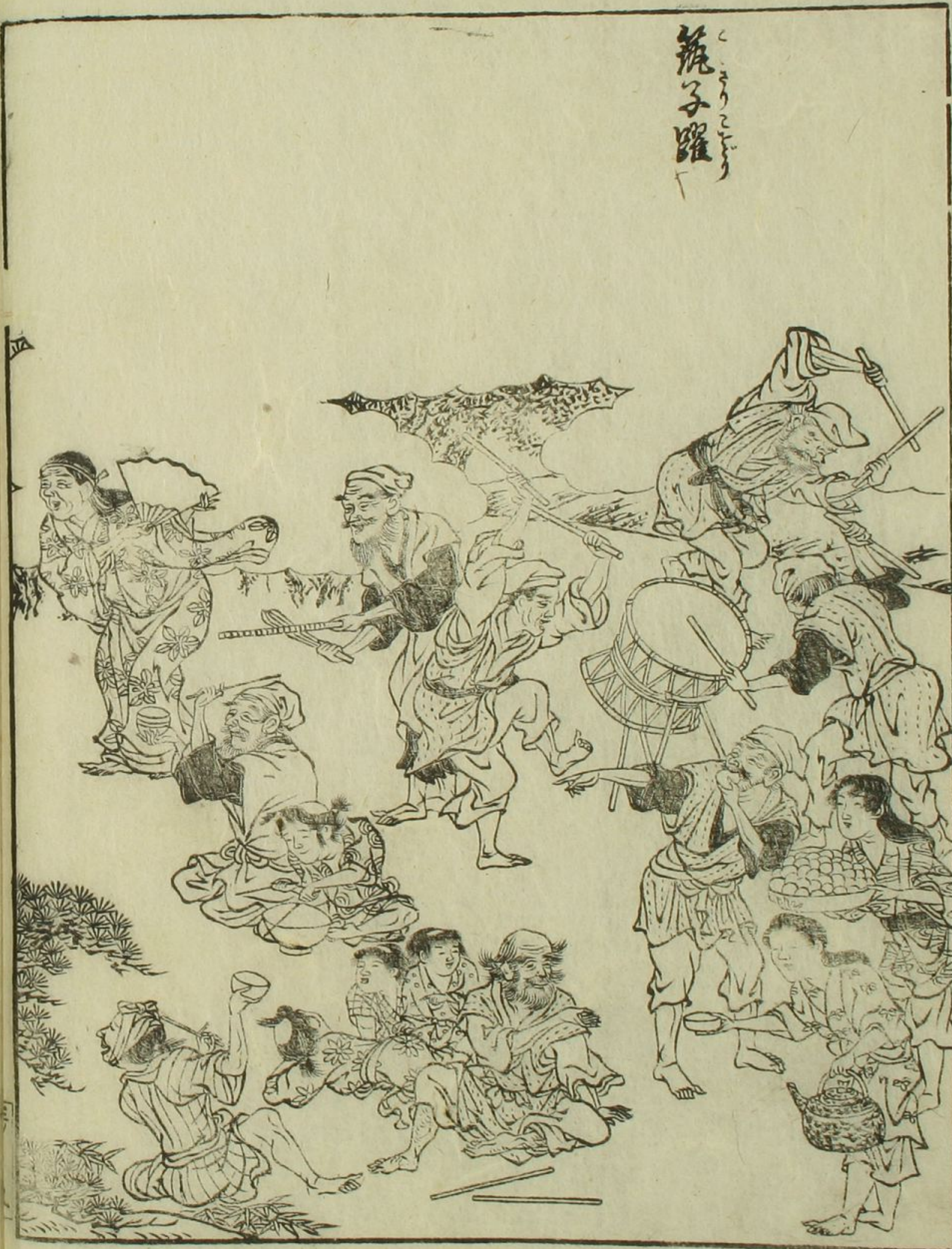
五筒山  
麓の渡



本願寺  
用本を  
伐出ん



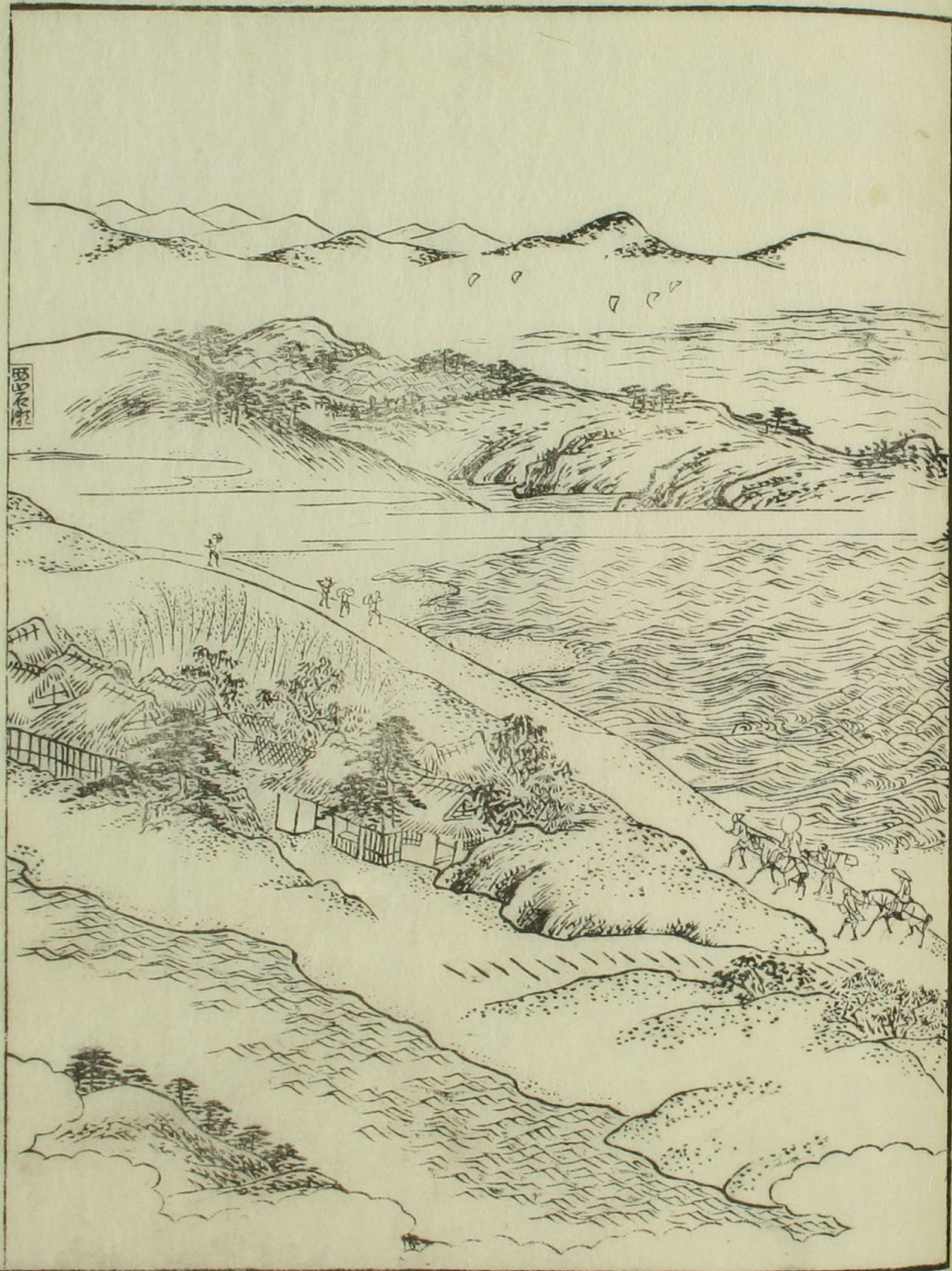




天柱石

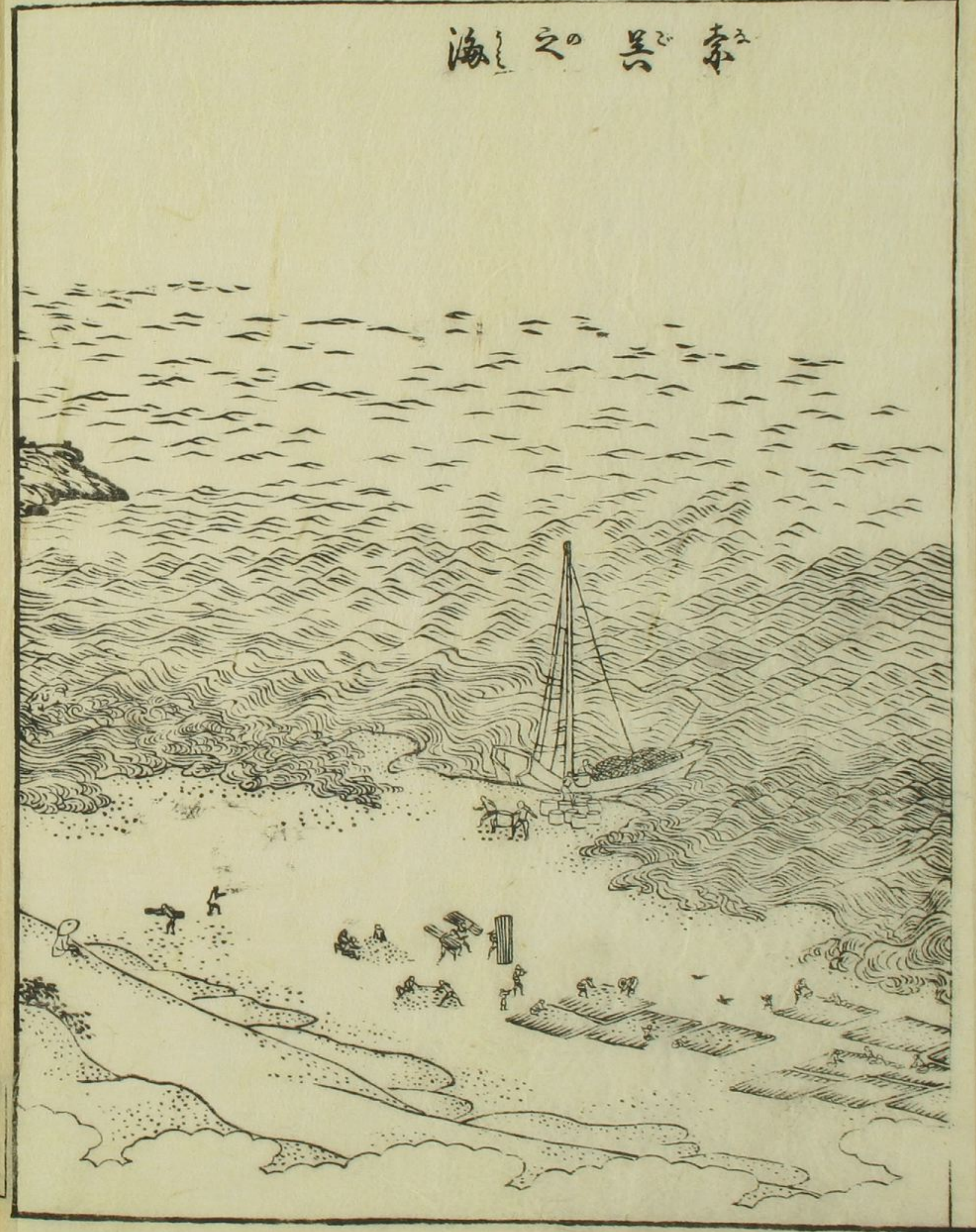




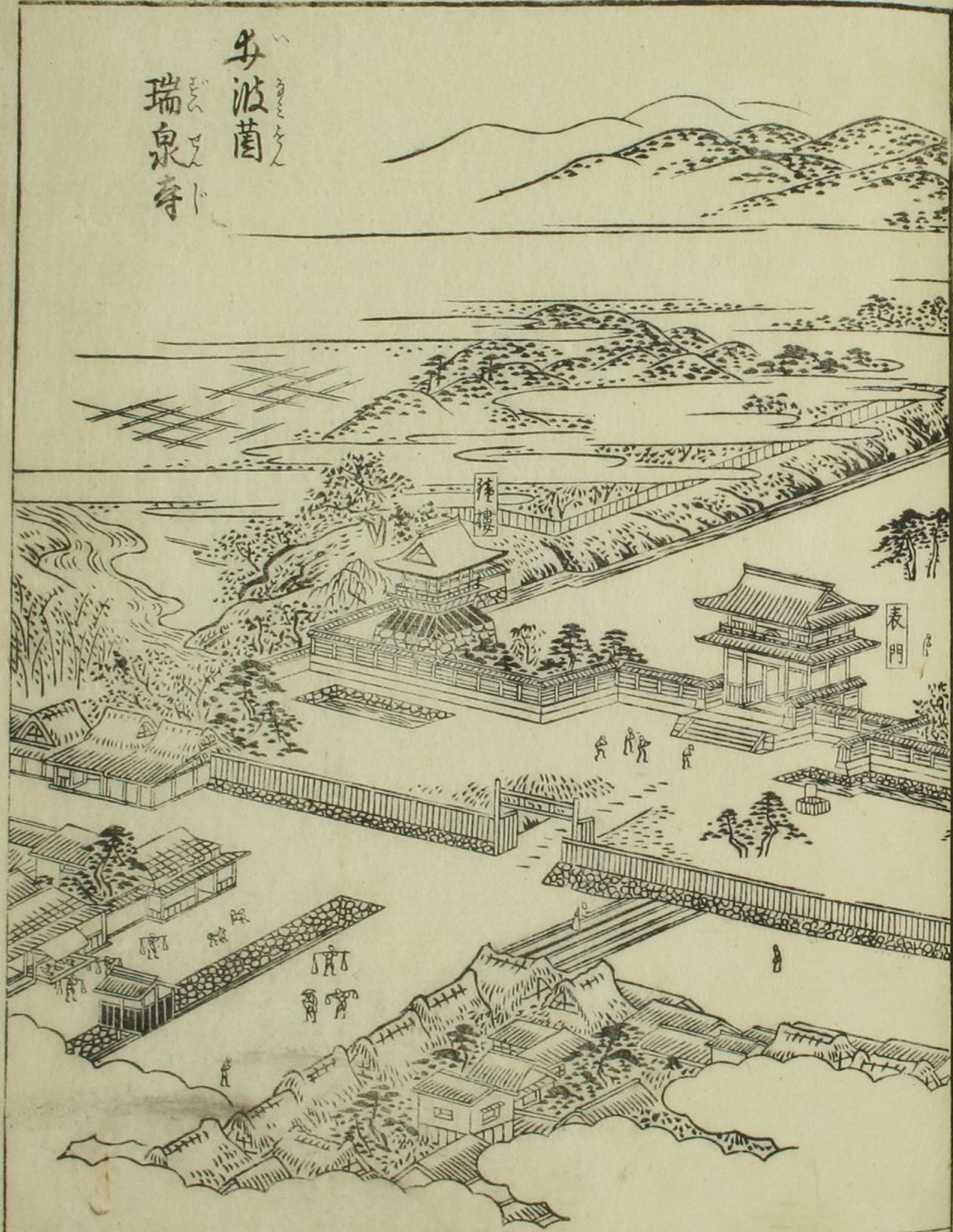


昭和三十八年

海之吳家



牛波園  
瑞泉寺





倭如上人  
勅と奉して  
書を  
讀み  
治す



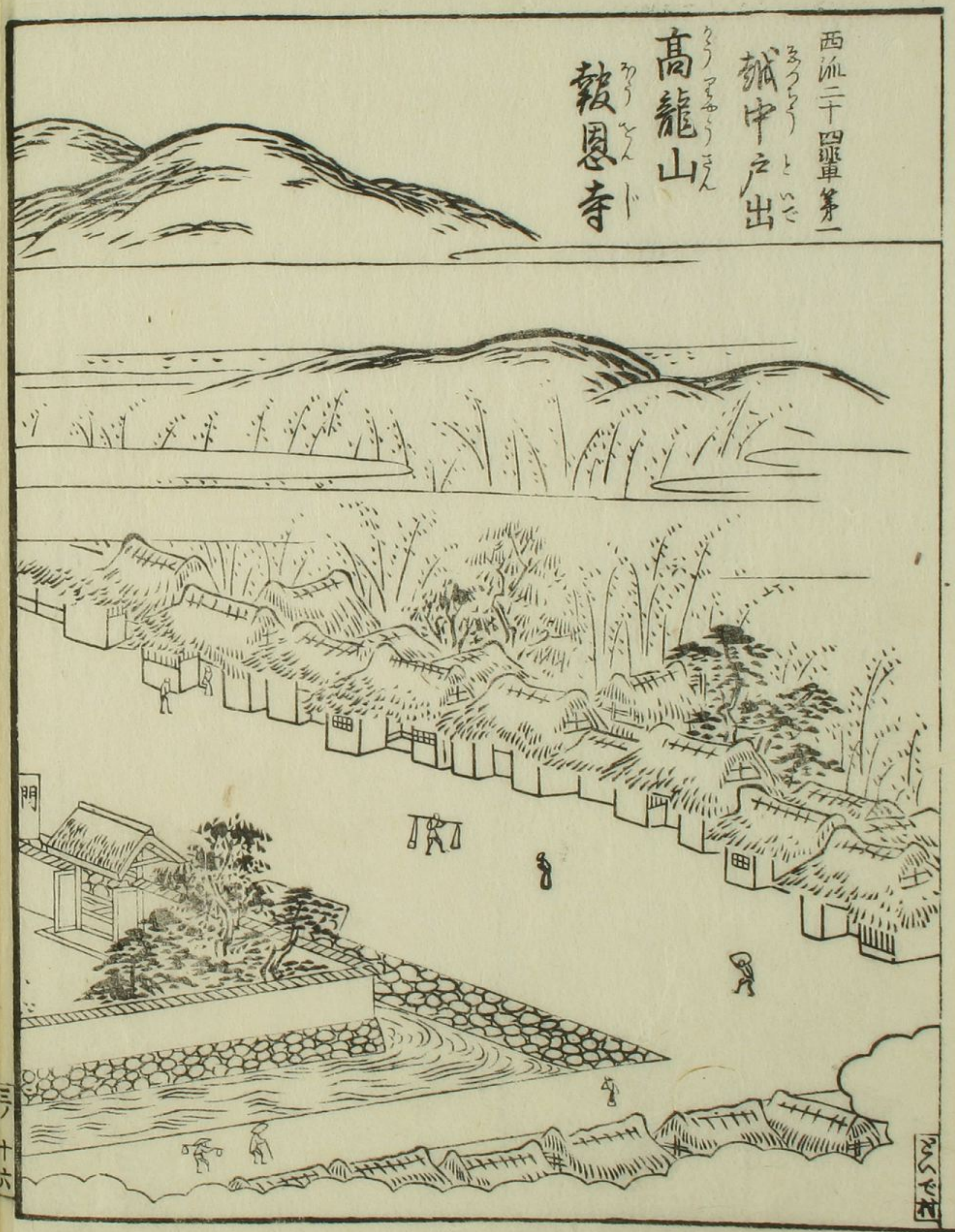
二十四輩分一  
高龍山報恩寺 西流 安波より三里  
戸出村あり

謝徳院報恩寺の祖師聖人の遺蹟之往昔性信上人下総國撰曾根古院と再真してり門を弘法よりか歴年の後當國又別院と云ふ西流二十に輩乃第一番也本堂九間口

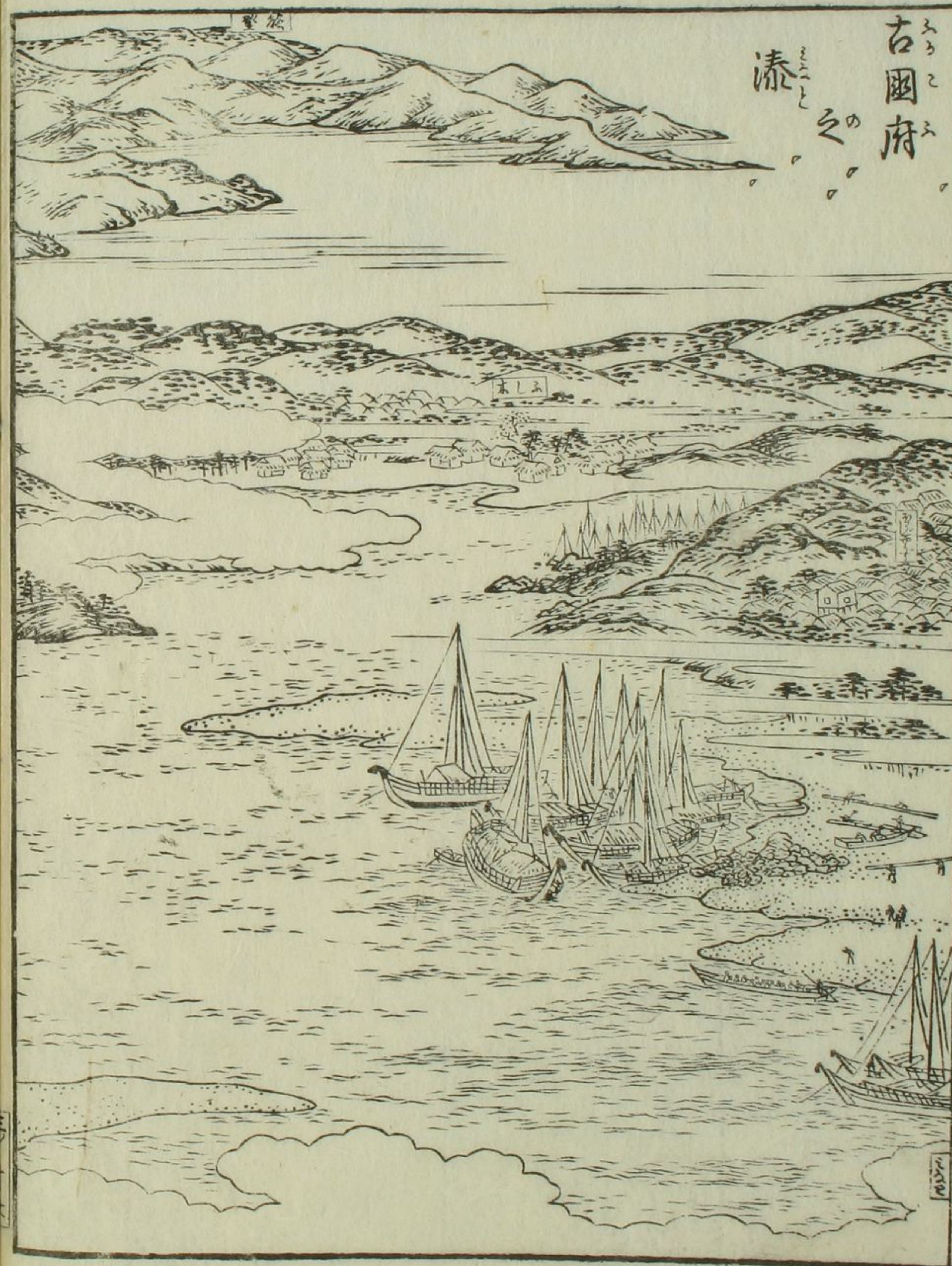
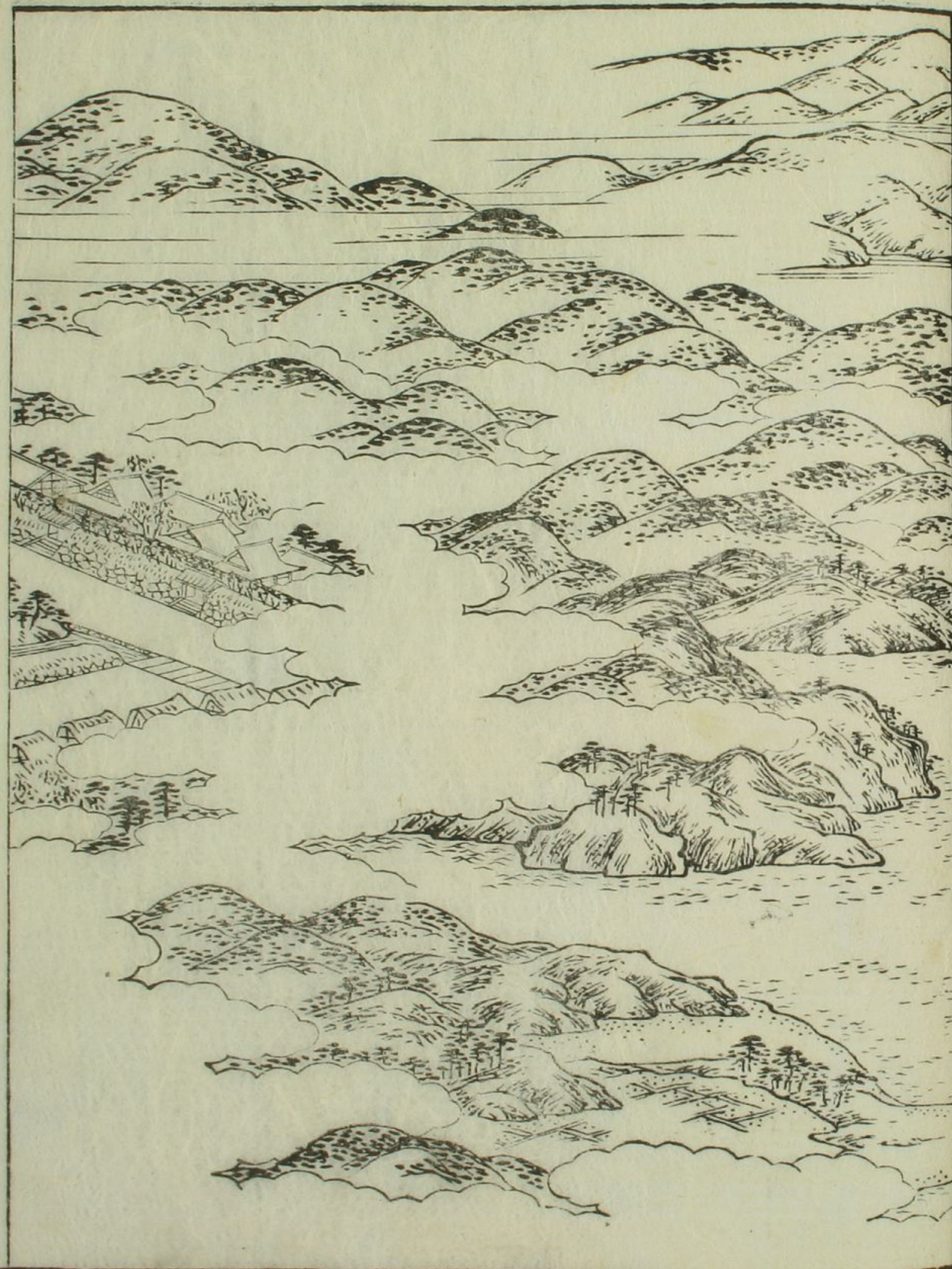
面 ○靈室二字十字名号聖人御真容 ○性信上人御自他の本像  
雲龍山勝興寺 西流 三國より二里低並郡古國府あり

尚寺に加祓徒三ヶ國乃大寺御降依不して國中西流寺院の僧祿所なり寺法宗令と云ふ山より支配以別て實如上人より水陸七ヶ國の法既祓へるべき台御書を賜り御本山御代々の御書教十通 乃軍家國守御寄進狀教十通あり ○本堂二十五間に面奉る阿彌陀佛 北人の御 御寺勢祓の西本教寺御門法御達教をん 御持し給ふ方り ○坊舎八區 柳山岡岡の素中と爲るは御持

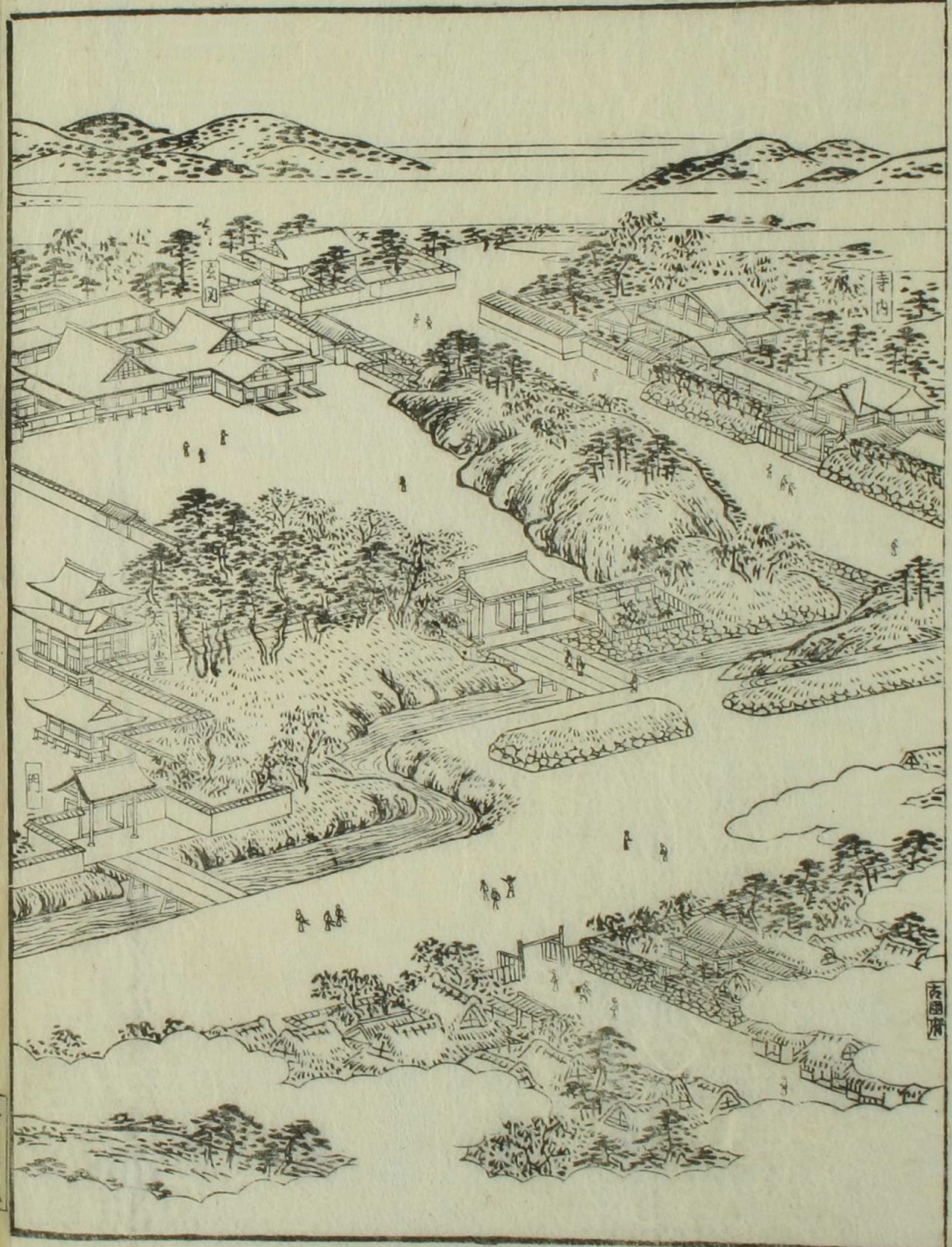
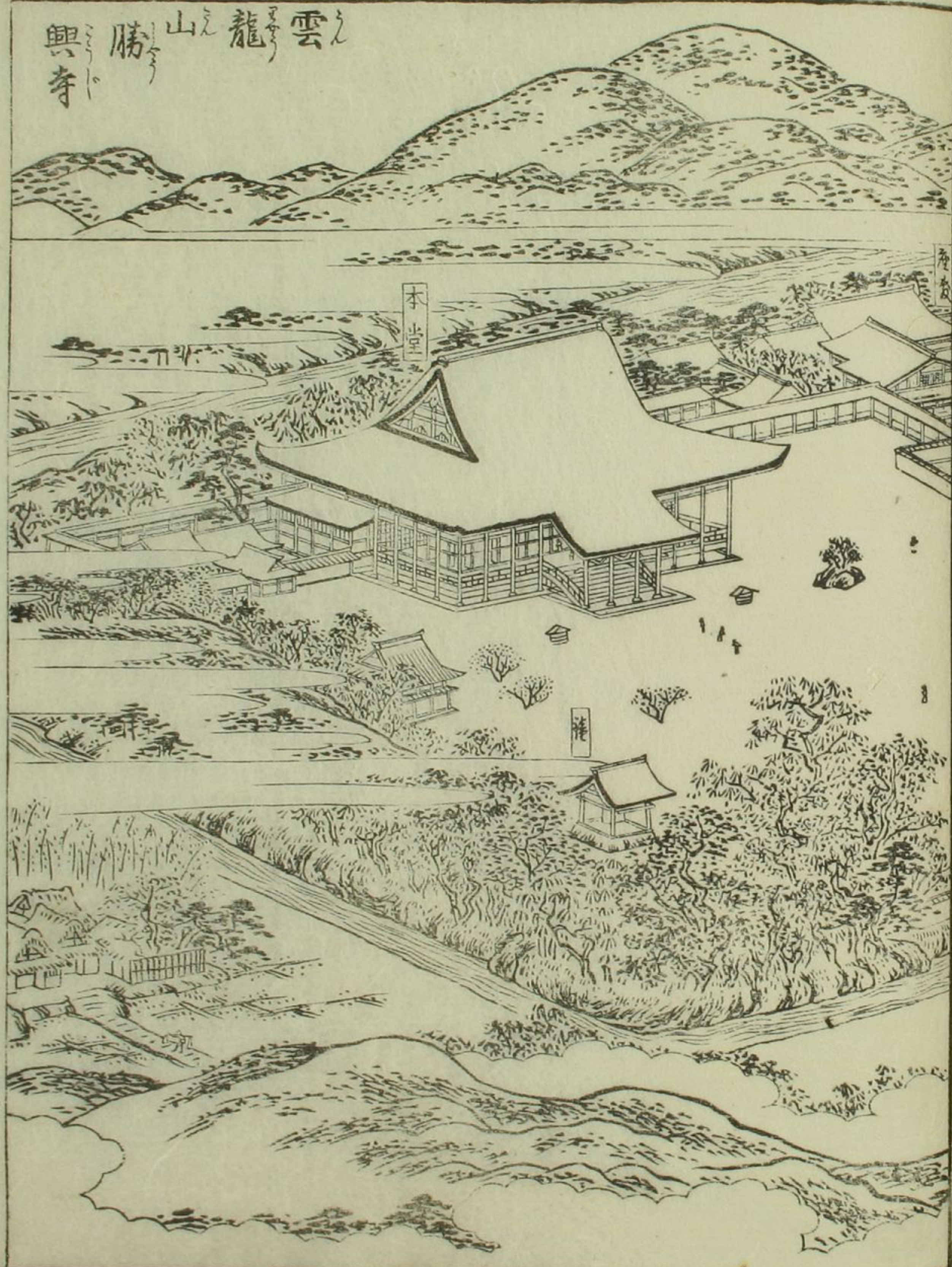
祖聖人祓後國に在ませし時日國蒲原郡多屋野といふ所に一字の御堂を建立し給ひ御化益あり其後聖人常陸國へ立祓て弘法乃世終ふ千時人皇八十代順徳帝養久三年辛巳年依後の國に遷幸はしし祓後へ初委あり聖人の坊舎に入御し給ふ初く聖人は國東より瑞里給ひ此坊舎に在はしされが帝聖人の徳妙を爲ひ給ひ出離生死の要法と示せよしと勅命あり世終ふ聖人帝の著授心よりと終ふと欽奏して地力本教の正業一向專念の宗旨と念以て御教化ましくされが帝聖人の信心を得し給ひ欽びの余里震龍を深て勝真寺と命せらる寺号の教を賜りたる順徳帝の皇子産祓親王御幼雅の時より叡山に登り慈徳和崗を師として出家し給ひ漸々と号せらる祖聖人の徳妙を慕ひ國東に下向ありて聖人の面濁し御持より給ひ則聖人より法名と信心と



西流二十四單第一  
 城中之出  
 高龍山  
 報恩寺



興勝山龍雲  
寺





名づけ終り其後聖人河津治の時信念を命じて宣ふは勝真寺  
を妻坊の父帝勅教の寺をまは彼寺を住して小園と化養し終りと  
信念かこ終ひ聖人の命を應じて勝真寺を建て後賦し其内を  
息信興上人の寺を譲り終ひてより累代お續せし中古兵孔  
の弟より退治し及んと終るに文明三年の比蓮如上人河津向  
乃初順徳帝勅教の寺をせん廢退し及んを應じ終ひ則狐後  
の舊地を此地に移して河津再真らうせ終るをわうとる○靈寶  
教品略く

○嵩山修仁曰祖師聖人一方を佐渡國に創建し終り順徳帝の  
勅して寺号を殊勝極願興の寺と賜りて且勅額となまりき  
順徳帝第三の皇子義成親王聖人の河津子より信念上人を  
号して此靈院と相承し小陸七州の化度を聖人より免許せ

らとたれんとい

高柳山東弘寺

西院

古園府より十八丁  
村水郡板村にあり

東弘寺の高祖聖人乃る牙若性上人の用基方り極起の下の園  
東弘寺同建也○辣香の阿弥院如來の基菩薩の河津を安  
せり○聖人の河津真教の河津也

館定山極性寺

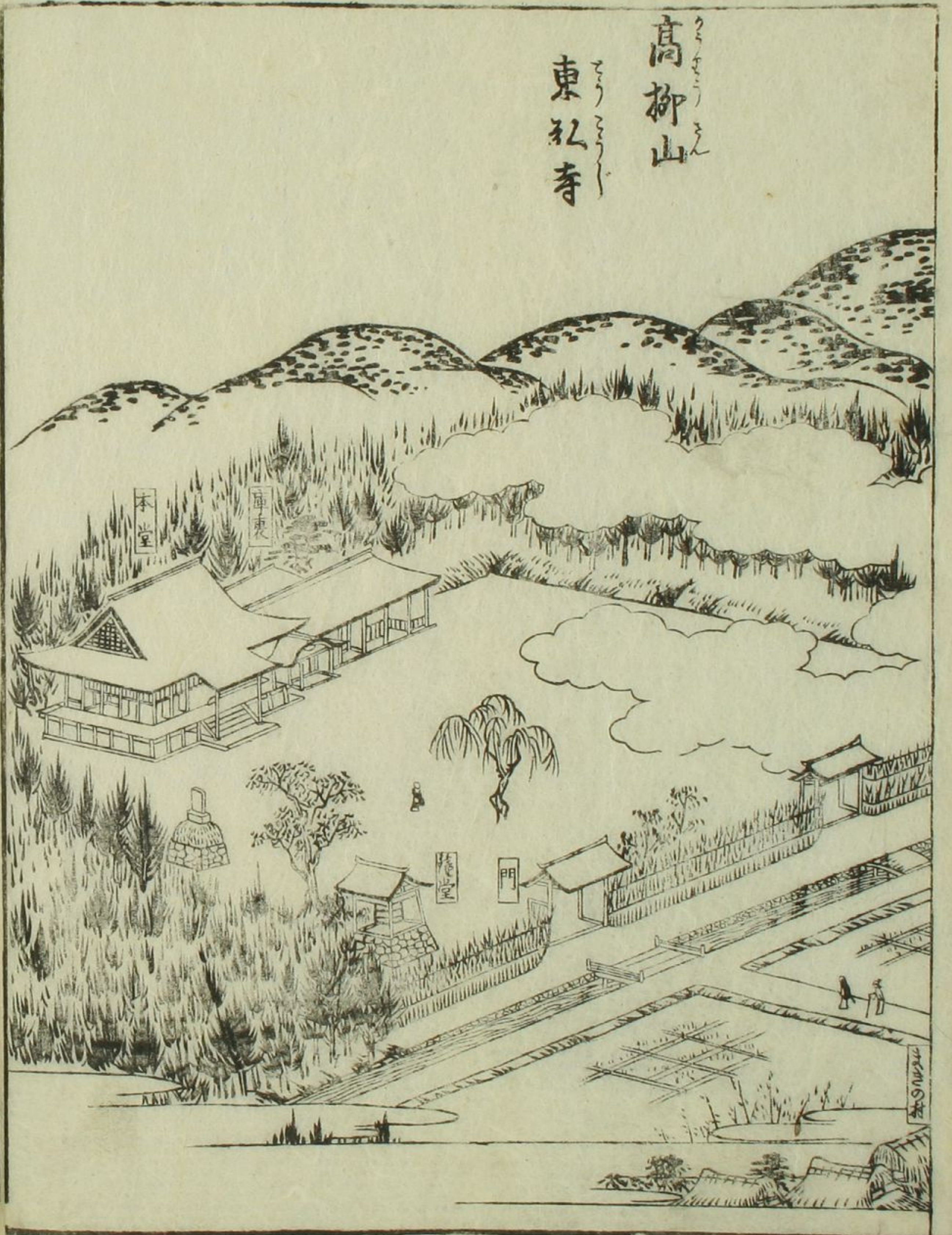
東院

古園府より五里半嵩山の麓にあり

本堂なる阿弥院如來の基菩薩の他塔中三區 柳嵩寺用園と  
性若人皇六十代延喜帝の朝に宰臣及原基經とらり其經  
の三男徳麻呂延喜二年に年十七歳にして母信の夢と道と  
高柳令剛峯寺に登り弘法の教をまひ三密瑜伽の妙法を得て  
徳長院と号し延喜十九己卯年古園新川郡館の里に住り延  
長元年二月帝より館定山極成寺宗貞院と勅額を賜り加蓋を

高柳山

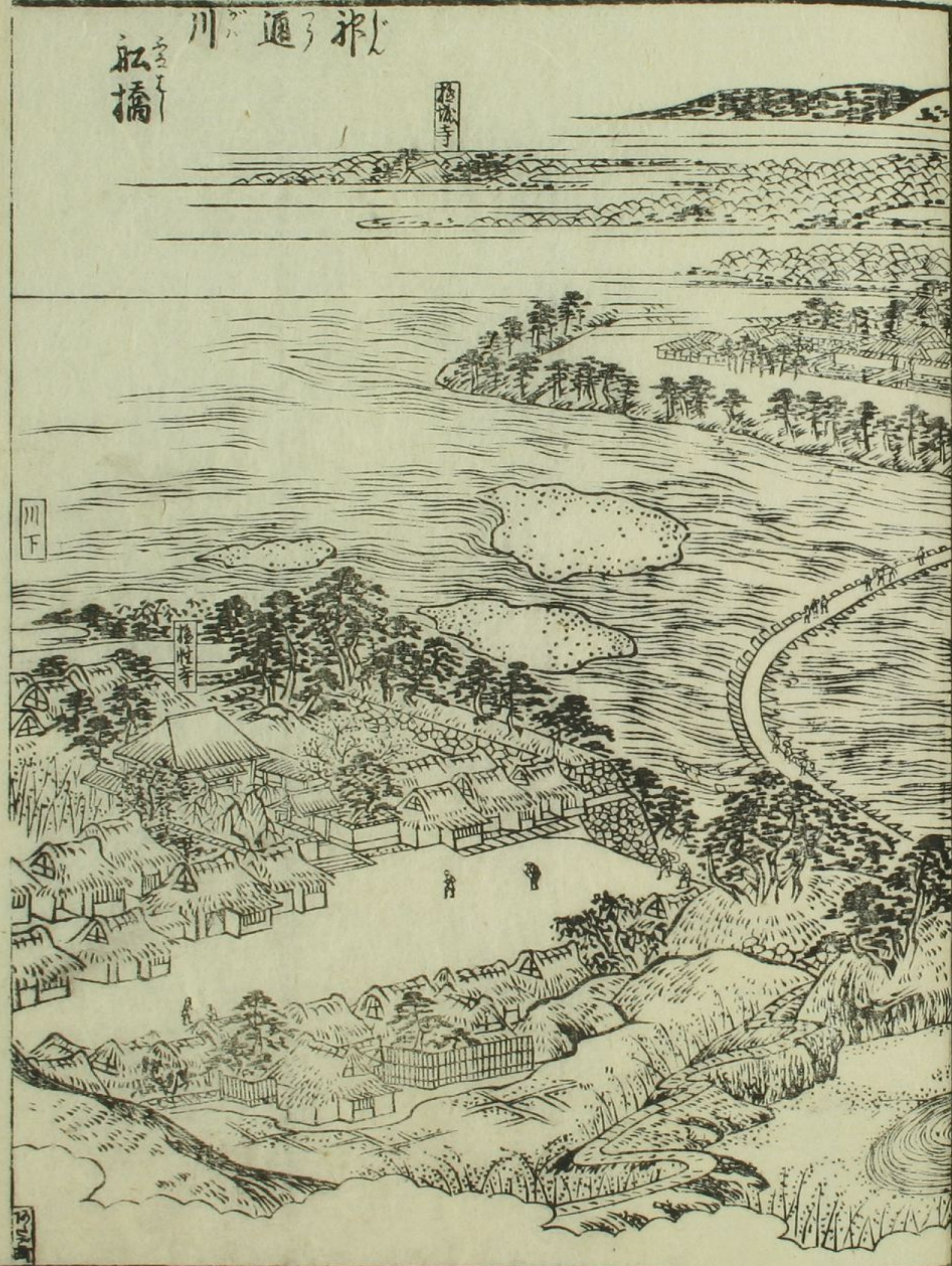
東私寺



建武以迄より七世の寺務を惠明院とて千時建保元年の以高祖  
 聖人祇後城中所く住法して化道寺在まやが一日被皴の伽藍を見  
 跡の二王門の蒼蒼る立石に冲腰とつけらど惜く休息し終る一法被  
後へ市下向の付 塔中の甚正院とて僧門用よりこれをとれば門の老なる  
里をくつ路へとも 二王の像一白臘とてめて聖人を拜せらぐじ甚正院寺なるにその  
 其まきり入る寺務よかくと若けは惠明院立出て是とて小その  
 河又遠くはしこれ突は九僧ららざらるをわけて即聖人又面指以  
 聖人其宗尚と同終る惠明院善なる小詠奇をなして  
 我法の橋と婦の九十九發指ふいりれば解とてさるは  
 聖人け款の意と得く叔の真言天台種解種々の宗尚とてわ  
 終る惠明院又聖人の宗尚と尋なる小聖人善入て  
 我法の朝夕扱く児の發ゆるもいつく解とてさるは、



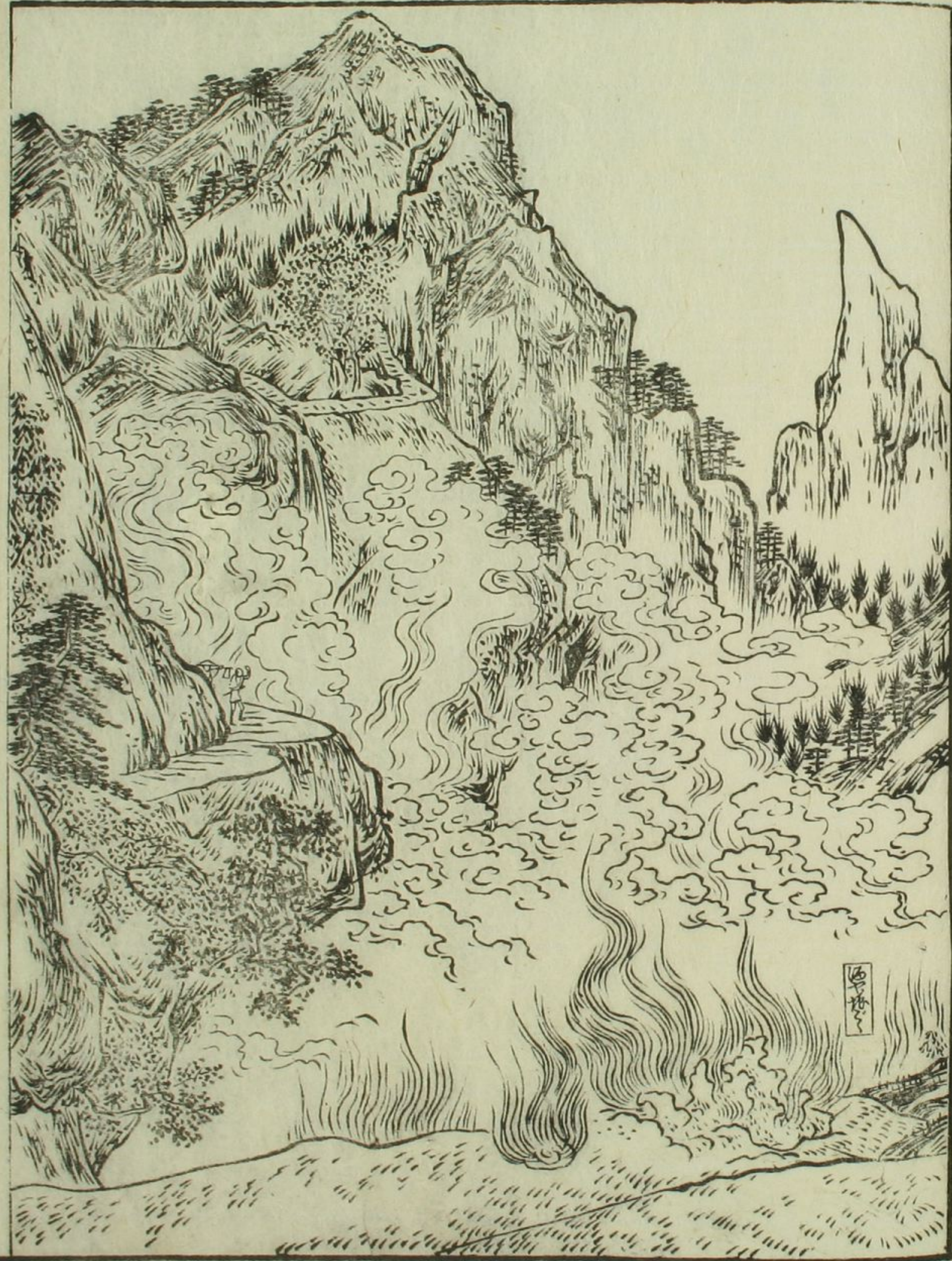
秋通川  
船橋



たてやま  
立山  
之の  
圖



とうん返教し終ふ爰に抑ひて惠明院へよ〜九僧より次とあり  
 寺又清くあり終夜回音符横〜實に他力易妙の教なり末法  
 五濁の要法ありを徳圓せらじしより立石に本宗と改め宗門に  
 皈し河井子とありぬ聖人即法名と教順と授け終ふ叔聖人此  
 寺と出給ふ河教順坊も河佐や官務とふふ高し終り爰に極  
 盛寺累代の門徒三人けるを河津法孫義徳の官務とあり河教化  
 と徳圓して河井子とあり聖人此三人より法名孫成たりたり  
 禪畑村の定相本孫今りの名に七郎を傳へたり室田村の寂念本孫今りの名に五郎を傳へたり合名本孫今りの名に九郎を傳へたり  
 是方より出附い法名と家名として子孫相續し今も極盛寺の門徒  
 あり教順坊の聖人を供奉し祇後園府よりあり聖年八月本坊より  
 寺号と極盛寺と改む其後弘世の御館の里の満堂兵衛の爰に抑り  
 所より移住しとあり其寺系と失りたりて第十世の極持良忠乃



西



五山  
楓夕峯

楓夕峯

楓夕峯



黒部川  
くろべがわ

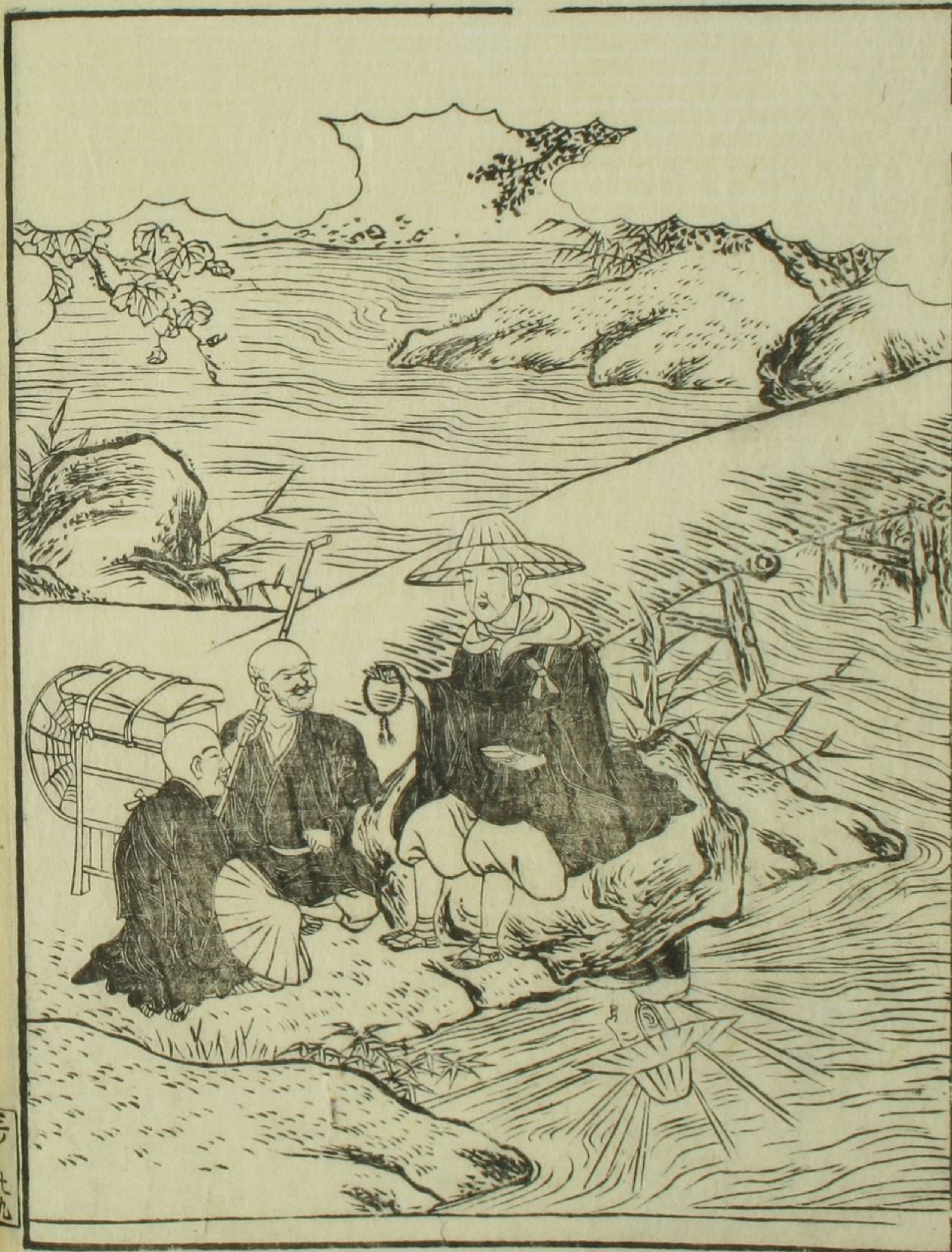
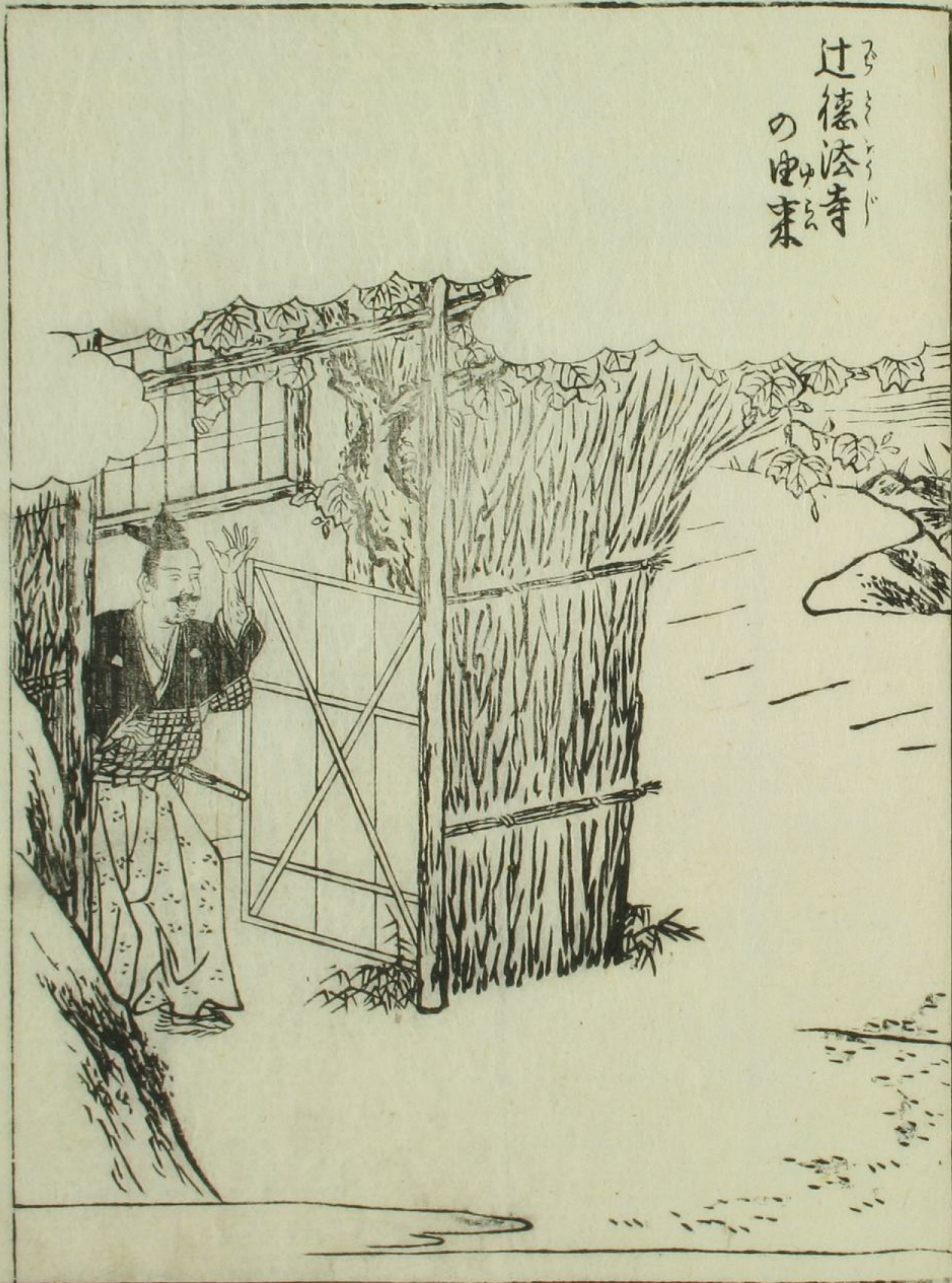


黒部の橋

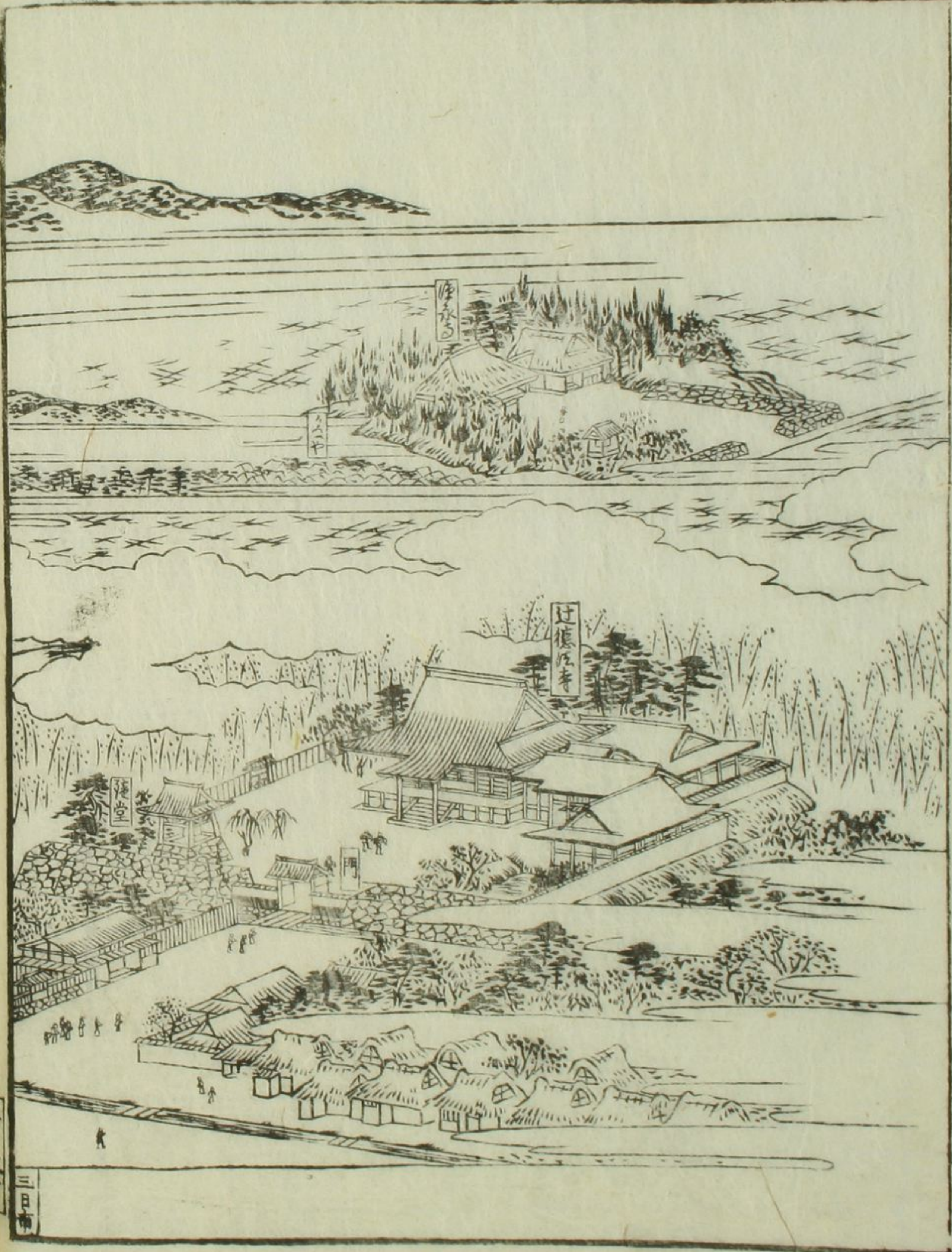




徳法寺  
の  
由  
末



徳法寺  
辻子



三日月



三本柿  
乃圖



此を世に傳へての石号とて源九郎門が子孫愛よりと建  
 匠して本山より奇号と免し後徳法寺即これ之御記念乃  
 石号當寺に安んじたり彼御腰掛石も門内より移りたり

三本柿

日所あり

むしけ地は経回屋とて乃者ありたり高祖聖人此多に入らせ  
 給ひ母をゆしとらまはるるふま何とてとく半柿と捧げたて  
 ましは聖人ニツ三ツこれを石よりきて其実と燻の中にとて  
 給ひたりが彼燻中をては燻うる実と名出たりは理と折まつて  
 實も今我ともむるもの法末世に聖人ありけし焼く柿の根と  
 生し芽と出ればと誓ひ給ひくは保しと此柿根芽と生  
 し枝葉茂きなり

此柿の正根を同くして三本柿といふ

今も彼地は繁茂  
 せりされが聖人御教化の法流末代弥増に聖人ありて実も高

祖の令言刻府を合せうらぐとし「吾哉承不成佛の九まり焼  
る果實のどくもれども佛智不思議の誓約と信しを信  
附の忽光明攝取乃河利益を蒙り現生よ心定の聚より  
後入地力不思議の河利益仰ぐべし信とべし

浄永寺 東流 三日市より十八丁金屋あり

出寺の姓古平家の侍母及別當実盛の孫永舟源宗と名者  
高祖乃河化蓋又教其謂と信へる舊跡之れが教及別當  
実盛又二人の子有り兄と母及みといひ弟を母及みといひ兄  
弟とも平氏内大臣小松重盛より家長より小松殿遊去り後  
出家して江州坂中西教寺に住し其子永舟源宗の當國令  
登又居住せしが其流の此所街道筋よりまは高祖聖人派  
後河下向の河黒邊川よりあはてるに三日過宿はし給ひたり

か月く源宗夫婦に對して是れも專修念佛の河教化にせられた  
まひ多きは夫婦清くもは陸菴渴仰して信心受得はしりまは  
聖人河教びのゆかりや字名号と書せらまてるへ法入別して妻  
女がたれ又弟三十八の女人成佛の願意と祈んごらよふしたるい  
て紺紙金泥の名号と書て三十五願と表して三十八願の光明と  
畫てこれをよみ給ふ其の源一寺と管と浄永寺と号はしりたり  
右二箇の号号今も傳來は

○月郡若村村託了寺に曇鸞大師高祖聖人對座の河  
教あり聖人稱回して河深等云  
月郡舟見村雲龍寺に竹布墨筆十字の名称あり願  
よ六神乃化佛の高祖の河真筆とあり

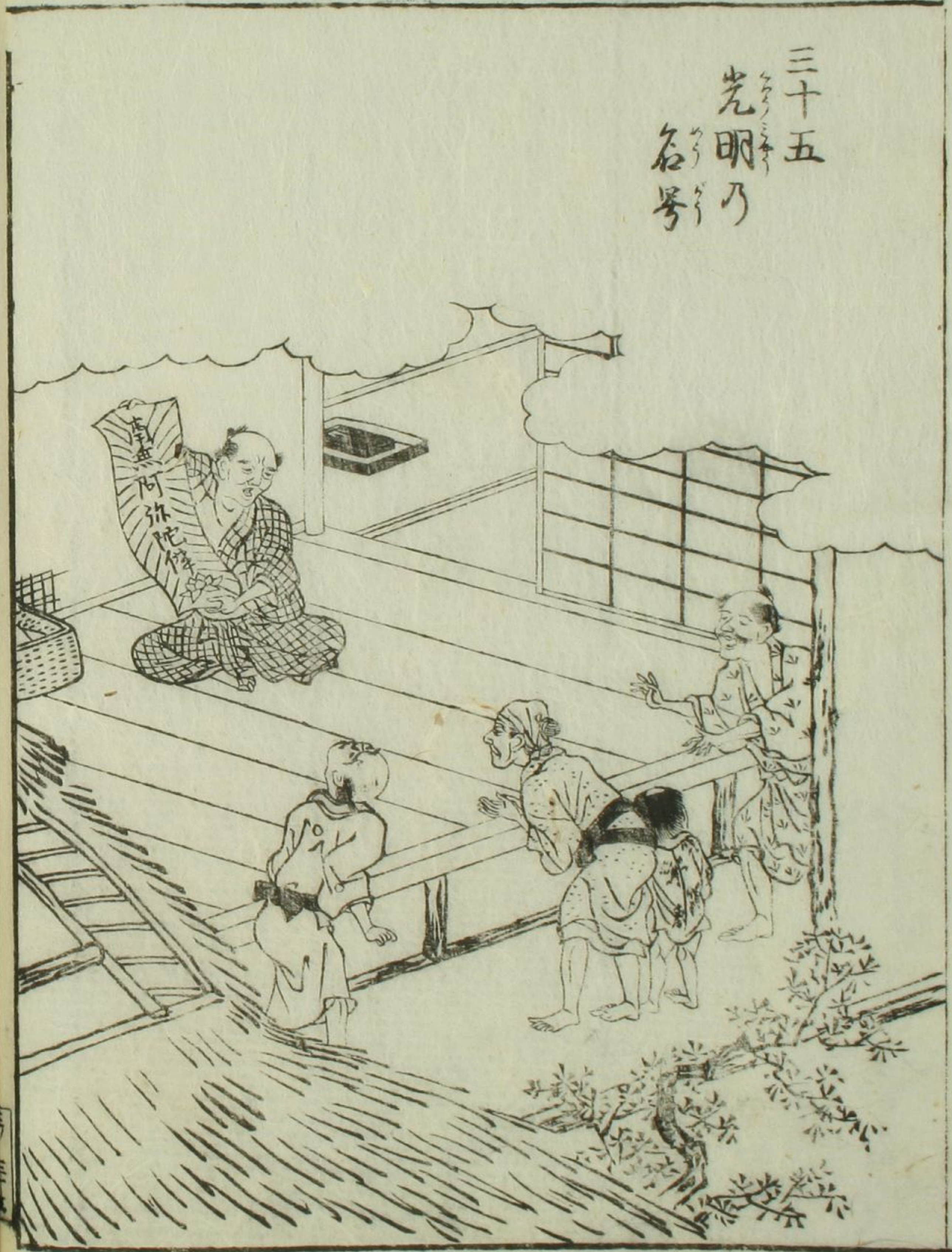
城後園

城後園三日市より横山の宿後の名は刻りてに里守の幼後之横川あり城後

市振いりふり  
のの源しげ



三十五  
光明くわうめい乃  
名号なごう



親  
三  
三



城後の園塚あり是より城後の市振外浪を味まて溪辺に里より  
天下交双の羅布にて親まきけりまきけり大なりなりとては遠く  
よ右の方の臨山嶽をまきまきけり後連り彼佛岳をまきまきけり  
属船をまきまきけり人かまきまきけり彼佛岳をまきまきけり  
道と彼還るにたの遠く浪波の鳴るにまきまきけり彼佛岳をまきまきけり  
浪浪回るにまきまきけり人かまきまきけり彼佛岳をまきまきけり  
よまきまきけり元ありて或は又七回又八九回ありてまきまきけり  
つしありて先と彼素の羅布人彼大浪の引と見合せ急まきまきけり其先の中へ  
近込ぬまきまきけり然よりまきまきけり巨濤巖壁をまきまきけり小波烟をまきまきけり  
はしくまきまきけりまきまきけりまきまきけり浪まきまきけり忽大洋の藤屑をまきまきけり  
まきまきけり親まきまきけりまきまきけり親と親まきまきけり小波まきまきけりまきまきけり  
親まきまきけりまきまきけりまきまきけり若池大絶言まきまきけりまきまきけり人仇法の鳴るに  
遷の耐はまきまきけりまきまきけり浪のまきまきけり親まきまきけりまきまきけりまきまきけり  
の名まきまきけりまきまきけりまきまきけり小國第一の羅布をまきまきけりまきまきけりまきまきけり  
おて彼還るにまきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけり山の絶頂と通りはまきまきけり  
まきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけり命とまきまきけりまきまきけりまきまきけり山の  
懐まきまきけりまきまきけりまきまきけり浪波の細き岩路一跨おの羅  
まきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけり高祖聖人

人の御時ハ漢にて荒浪よおまきまきけり既ハ御命を危りしはまきまきけり  
大勢忽れとして波の上まきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけり  
まきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけり  
まきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけり

飛龍山大雲寺

奉尊阿弥陀如来 惠心傍都 造寺の村若上治山の林外浪村の庄

節此家又宿まはしくまきまきけり高祖聖人城後の園府へ逆路の  
み今日まきまきけり奉る小何とまきまきけり殊勝まきまきけりまきまきけり  
まきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけり  
人右道まきまきけりまきまきけり大慈悲の末代名徳の九まきまきけり  
て安樂國まきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけり  
よ飯命して不可思議の名号と稱し西方まきまきけりまきまきけり念  
まきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけりまきまきけり

金龍  
波濤と  
文々  
聖人乃  
雅と  
船



を切て沖舟より如く入り聖人沖喜乃余り又法名孤宗雲となまわり  
 沖舟と滞りて十字名号と書ふ人終る是より六代の子孫を傳と  
 り入る者あり文明に年號花吉備一語で蓮如上人又面宿と遂げま  
 り高祖聖人沖舟名号の由緒と物語じまは即蓮師の沖  
 舟と如し終ひ法名孤宗雲と揚り画像の沖舟を六字の名号  
 を授ふし終ひ寺号を大雲寺と終りたる

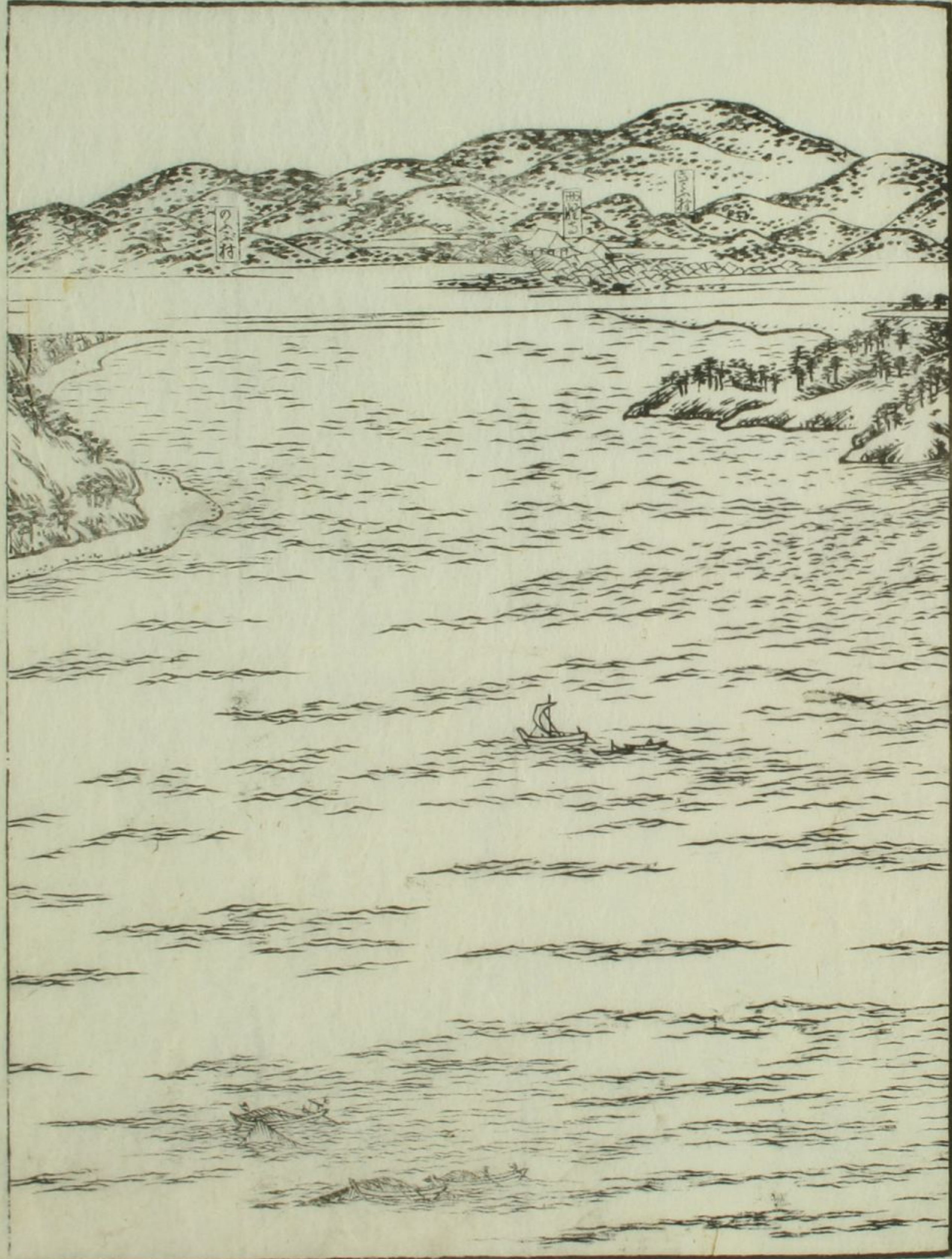
○外浪と云くを海と名る川の記の向は形川と云る大河なり急流の  
 流るに似て舟渡りたるの難し

惠谷山西性寺 東院 外浪より六里半程伏村あり

尚寺の捕田西性寺と号し本堂十三間に面本なる阿彌陀佛 傍有  
 也○往昔當國の刺史捕田出雲守祖師聖人又皈依して二心より  
 里しく即聖人十字六字の名号三方正面の弥陀佛と授ふし  
 終る彼捕田氏の子孫記立りたるの寺と云りや今もは靈寶を

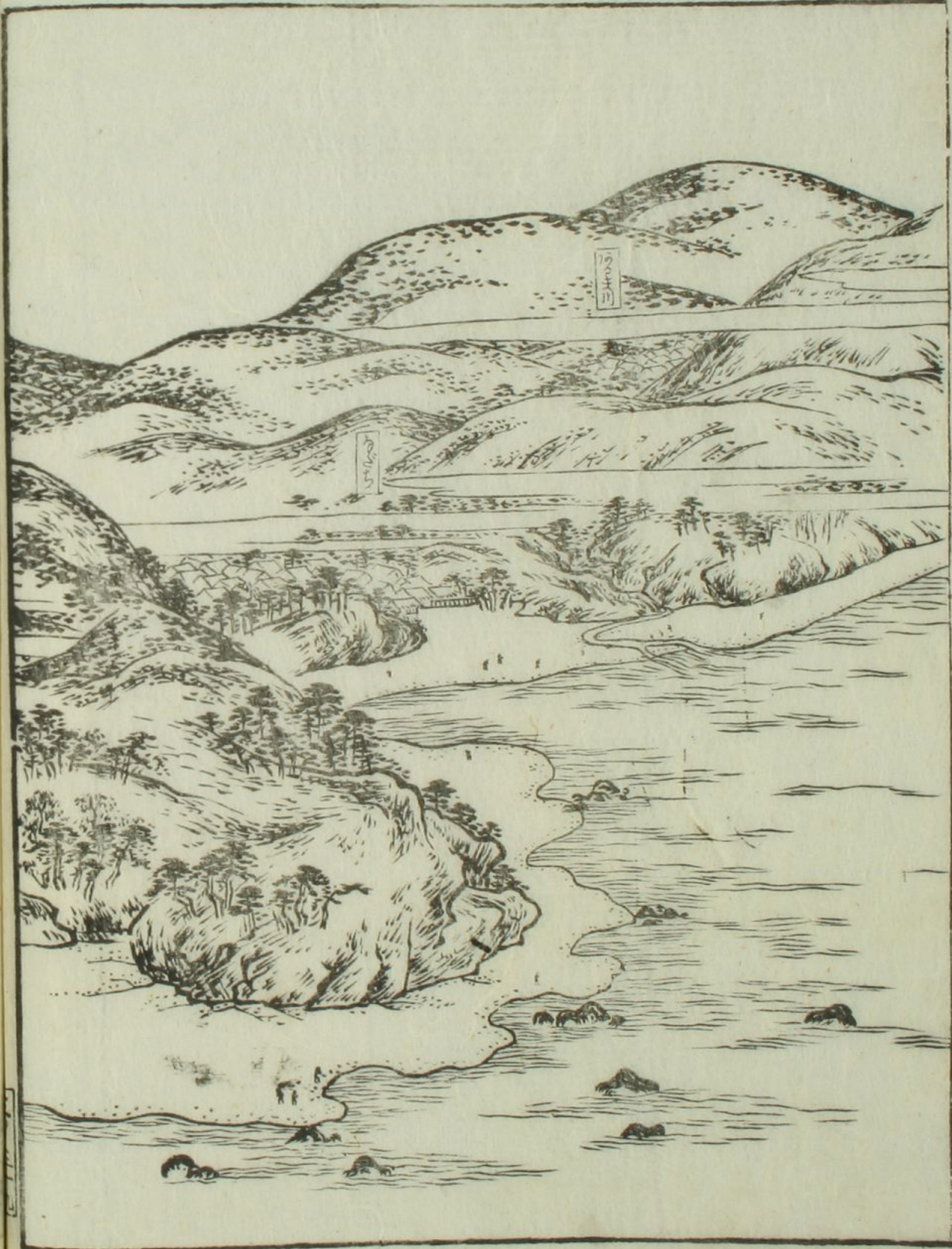
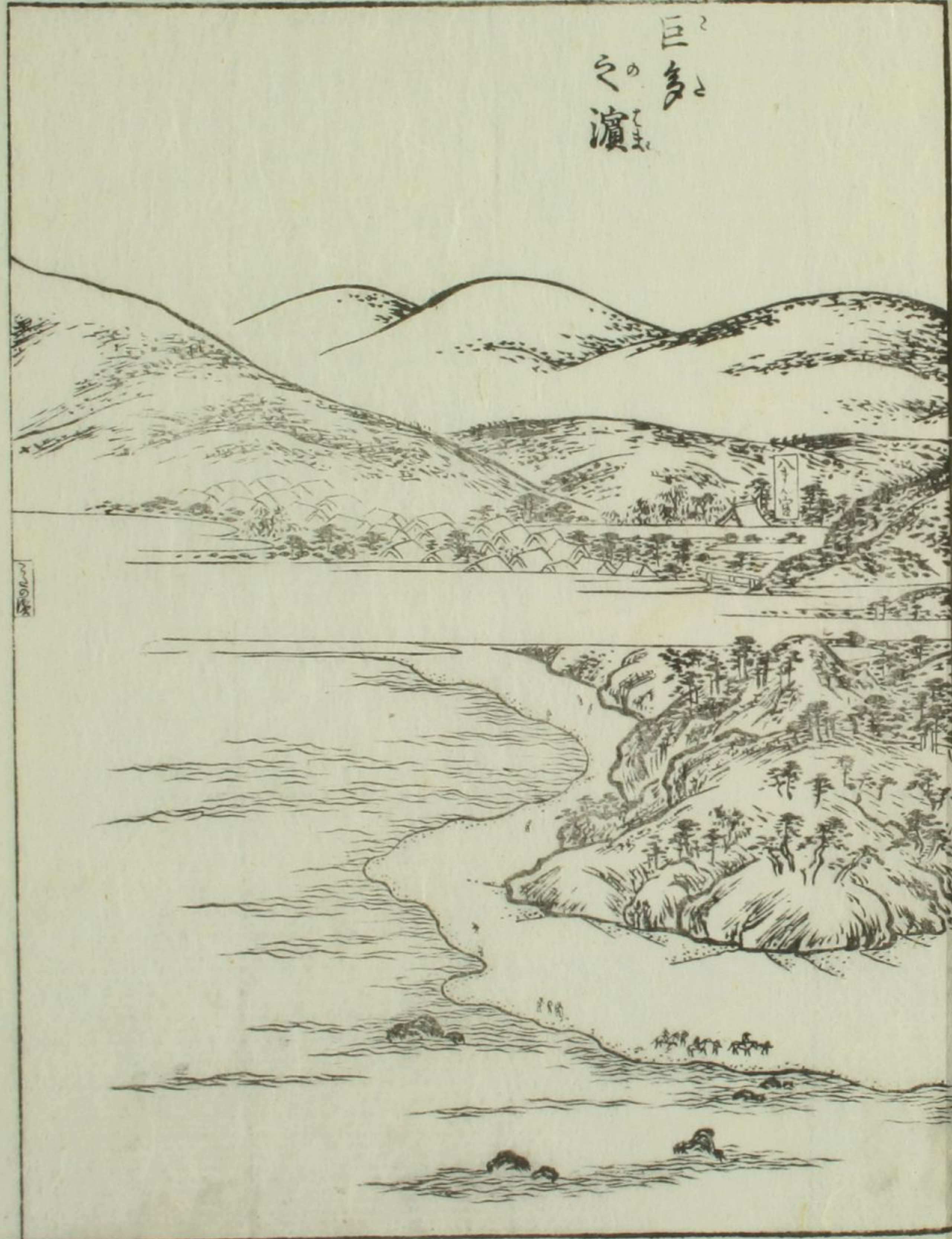
飛龍山 ひりゅうざん  
 大雲寺 たいうんじ







巨多之濱



安岳せり其外宝物教品これに略す

外浪之鬼依の同は田海西蓮寺あり聖人より授けし紙令流十名  
名号墨浪六名名号と安岳せり

鬼依村を以て流生の名けり其向ふ名立とて入れ不あり上石立下石立  
とていづれも穢師の家居あり夫より彌々浦皆押坂と傳へる川とて入る  
日く人家ありて悉く穢師なり去り寛延二年の事とてやけ石立より馬川  
のやけり地震して名立の心二つは破れ海中へ落入りやふ山津浪瀬津波  
日く浪とて名立の川の人家教百形一府は崩れ男女五人海中に押し入り  
溺死せしとて

巨多の濱

鬼依より九里

古老の説は玄高祖聖人外浪より沖立河川と小津浦より船は石  
と八里の海とを經り赤岩とて入る若岸とて此處へ入りて  
一河に流る

馬川のむらへ長溪あり是れ人狐の長溪とて秋名不之長溪とて  
大りりの難而ぬ右の方にはま日とて入る上秋津信の藤し燃れり山  
の頂とて懐ヶ岩とて入るの方には弾内匠が建し五智の如來堂あり

安國山國分寺

鬼依より九里巨多より二丁余  
國府の内五智町あり

當寺も天台宗とて五智の如來と安岳津深院と号く本堂  
十二間八間也 聖人祀流せらるる山に附増く此寺の境内に在  
りり即二間に方の堂に聖人沖自他の沖教像と安岳せり後  
方り山に鏡の池に聖人沖像とけ池ありて自像と略せたまふ  
後て鏡の池と稱し此石と竹の内の沖齋跡とて

大場村沖齋跡

五智國分寺より二丁大場村の西に  
樹木竹の鼻あり今い小丸とて

け石に安聖人を遷り沖祀所とて入り後い叢林の嶺峰へ石  
深淵の沼を右にめぐり中へ山脚の狭き地面十歩ありて  
即聖人の沖齋跡とて石に刻ありて後い此本の菴とて  
ひ聖人と入るなり多き石碑兩基を建たり 其銘に曰  
親鸞聖人國府五年之遺跡石燈籠延宝九年酉六月廿八日と



安國山  
 園分寺  
 五智如來

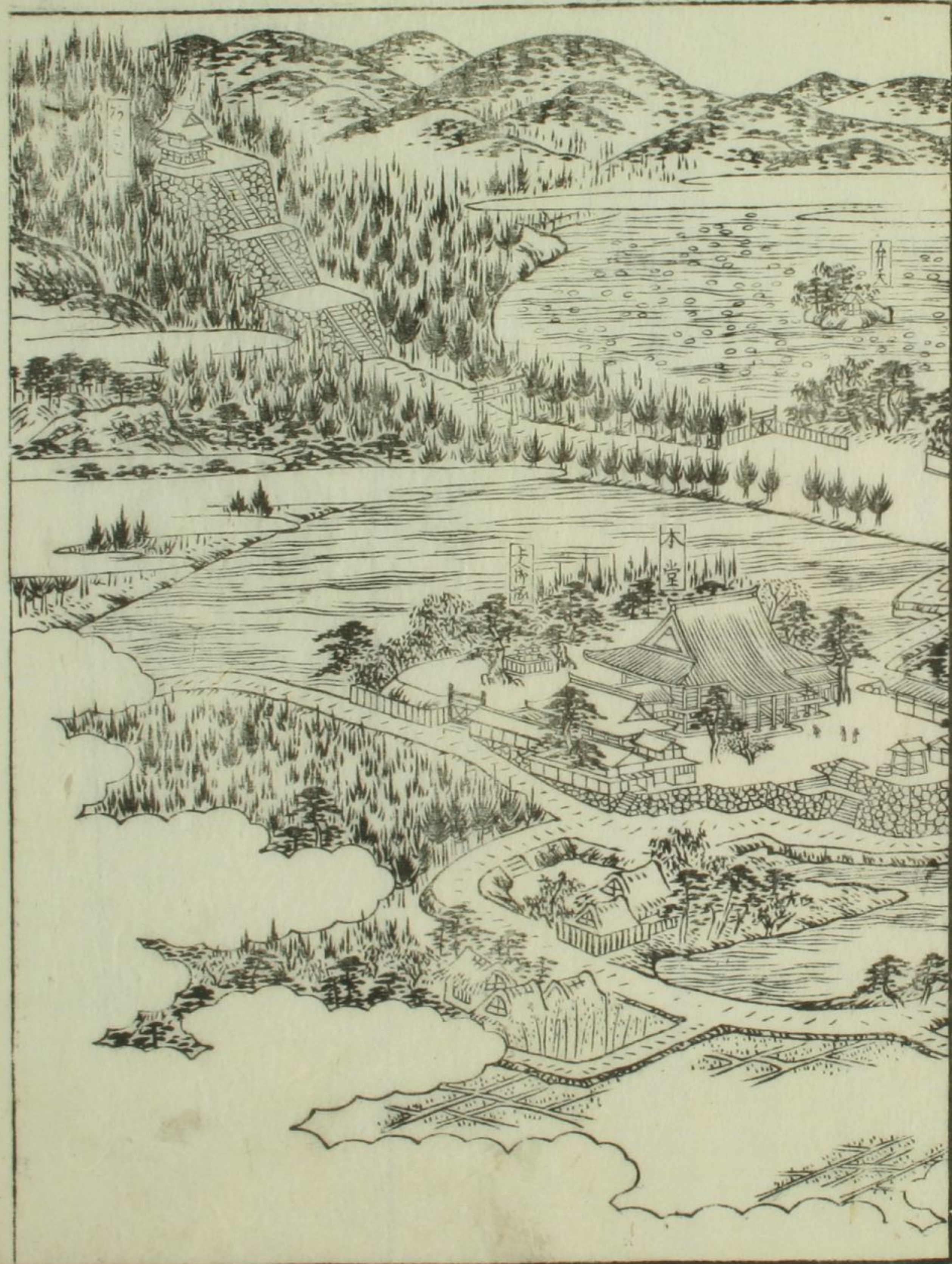


聖人  
の  
所  
の  
圖



又一基の親鸞聖人五年遺跡を大谷本願寺奉報謝石燈籠  
籠右より貞享二乙丑六月廿八日とあり○人皇八十三代云門院  
義元元年三月宗祖聖人御年三十五歳の御時付被後ら國府  
一配流せらるる後いづれ山乃碓方へ垣せり小屋又押籠らるる後  
日夜とことせ給ひける其謂と傳へ義元は美濃の美濃御所を治す  
むせびゆるぬ押聖人を遷の御時國府の郡代萩原民部被  
累とるる武士は聖人と御時御所へ宣く計ふに有勅命あり  
被萩原民部始めの御時は美濃安信よりて物の怪もあつたり者  
とてあつたはるる聖人をとも只約男の衆人のごとく此山脚  
いふせられた業屋と志門らひて入るる業屋とせぬとせし居の形勢  
新木の松と相し芽の家根は藤を以ては方と防ぎたる慈恵  
物と流後けるる居るれい風荒く吹時藤張の藤忽被て雨烈

く降候は芽の屋根潤て御時よきとあり居の形勢も  
その居りいたつて小跡の朝夕の齋食不足を御時り  
加之のありの巡りと極まじ水と渇き入られ誰一人も同ふ  
人ともなく凡る音谷の流とのと強ぐくて樹々の梢枝とる  
唯者信よりしそり藤の本に啼流の山は叫ぶ夢のともて物ほ  
御時居るるは御時もまひるのともて長くのひらせ給ひ居る  
はしませし御時と号し給入流や一幼後師乃火羅國は流  
さしし我目の本らるる御時其事と思ふのとも流とあり  
限りし御時後寛僧都の鬼界に流るる御時さしし我目は  
とも海度利せの御時御時ありし心も御時今聖人の流刑  
も處せし御時表より配所の御時と御時と御時と御時と  
も皆是末代の凡る御時はし我く後生出離の御時と御時



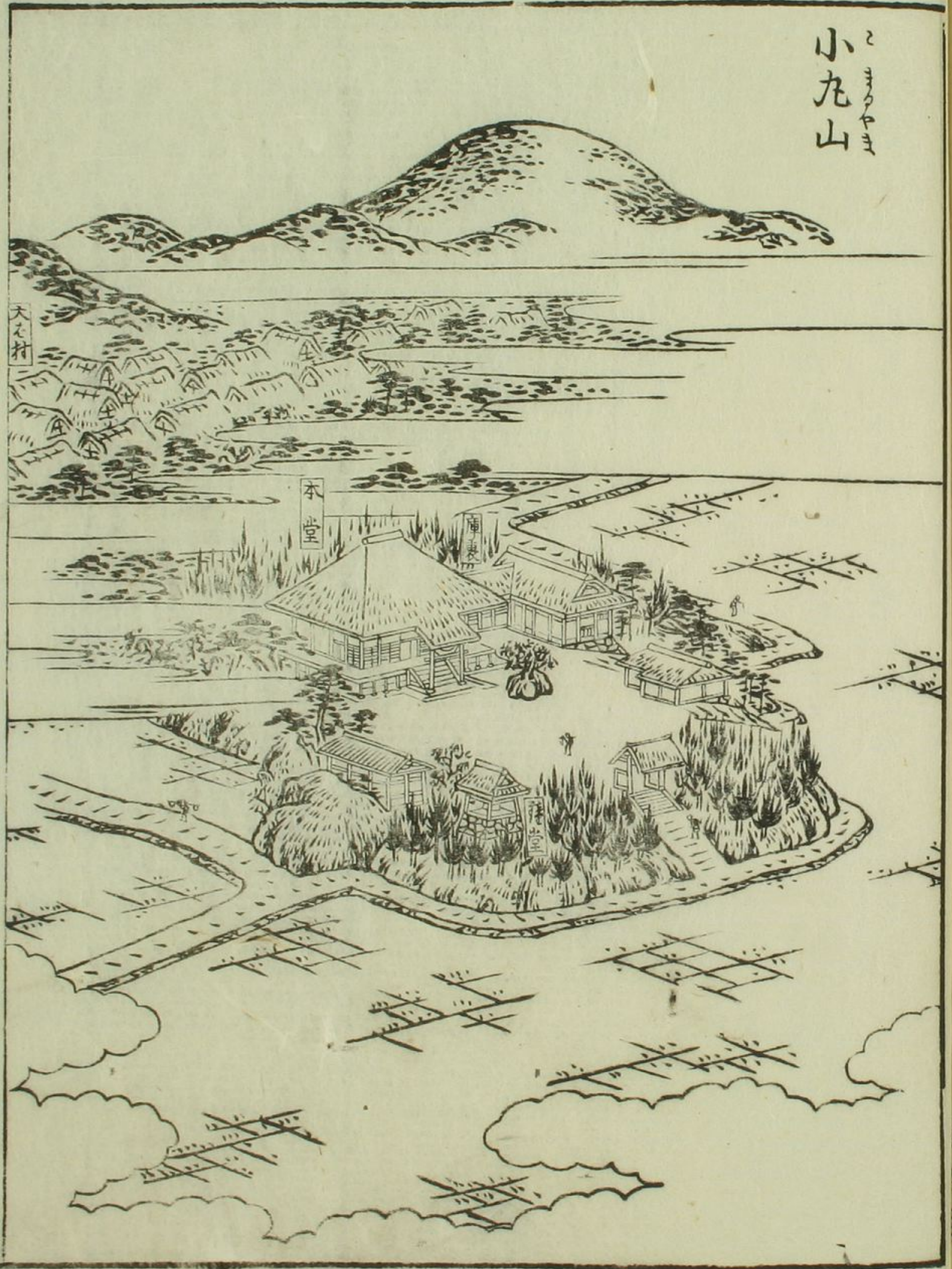
の御苦勞の極にまはさばまはさんびまよふてこれを拜まはるん物の  
 こと洞の夜を候り祖師の高恩と感づたてまつるも宜かりと  
 備つる

國府光源寺

東流 五智園寺より一丁  
 御堂

聖人當國元遷御記所の古伝の小丸山とて高祖聖人御自畫  
 瓦上の御歌を安んばぬとて隣りて寺も又小丸山とてまは言  
 宗の寺に即聖人配石の寺なりとてなりて云萩原敏景伝の御  
 老邪見登道の者にてあつたなり小聖人を強面にてはしり即ち  
 教月をかきぬる小後ひ聖人の高德と傳依しなり御教化の致る每  
 二の信者とも多とて故に聖人も其縁其徳と應じて當國のうら  
 ちよと稱候して海産利せし給ひ多ふなり御後居の古伝に彼方  
 此方と多くこれあり世人先と銘ふてしなりと

小丸山







教念碑  
真宗圖



人乃 九字一字名号 聖人の 後水尾院沖震轉乃名号 其外靈堂教  
去 十品靈像古名号教多る略之

觀喜踊躍山淨興寺 東流院家 日不寺町あり

奉堂十五間なる阿弥陀如来 〇嵩山ハ心叡用山親鸞聖  
人開闢造建 後人の靈場 なるを寺法ハ兵乱の火災ありて他國ニ  
移住し又ハ武内奉せし國主の降依り仍て住地と他邦ニ移り  
とくとも高祖傳来の寺系相承の什室歴代して現存在在  
末中の寺院百餘ヶ寺とあり 柳高祖聖人開闢し後ハ由來と  
易く小聖人沖年ハ十歳乃沖村沖治りて都々真心寺と建立  
一強ハ日年乃冬ハ以即建曆二年常州小碓の郡司武弘が宅に  
向ましくつらかに又年の間信州上州碓後乃迄と沖化寺ありて既  
建保五年正月より日國稻田の郷に來りて移りて幽栖と名づる

道俗踳と爲の蓮戸を因とんとて美徳備ふ瀝る此時聖人仰らま  
て曰佛法弘通の幸懐く小如就衆生利益乃宿念忽々瀝  
以當劫爰又救世菩薩の告命と受しり已又今と并合せりとて  
御岳院ありけるがけ附又當國の御并又御門系の草頻又一宇と  
御建立の儀を執ひたり聖人甚御歎びあり即常陸國笠岡郡編  
田の郷雪谷とありて一字と創建して歡喜踊躍山淨興寺と号け  
十余ヶ年の同居住ありて又後返り御化道ありて後ひは信が  
考又貞永元年の春聖人御年六十歳ありて編田の御坊と御後長とせ  
らと御降洛のるは強き孫の附け御坊を御并子若性上人と譲りて人  
け若性上人とせり人乃亂れ人皇八十二代の聖人後鳥羽院才三の  
皇子とてましませしが叡山と登り出家して周觀と号しなる修學  
の功獲り幼徳良秀譲りたるが頻りに源道の志おほして山をとり

諸國の御脚一竟又下總國に到りて國を豊田に即治親が許又逗留  
ゆしが若國又値のまじしと高祖聖人因東御化道の事と受しり  
建保六年御年二十歳ありて編田に到り聖人乃御教示を蒙り  
御并子と譲りて聖人より法名と若性と授け孫人既又若性上人  
淨興寺并二代の住持として專聖人の遺法と弘通したまひしは  
文永五年八月廿日御年七十歳ありて大徒生と遂終ひぬ其後此編  
田淨興寺國亂兵火の災より中略く總州磯部とありて又靈場と  
稱しりしが再び信州長沼に寺棟と引りて再建しけり鎌倉  
の軍より寺の回菌三々貫寄附ありて嗣子相續し教代を歴り  
然るに永祿に年川中流に軍中ありて兵火のるは寺院悉く  
回禰に其附の寺勢回菌寄附の屋付と云ふこととて堂中に入  
獲火のるは焼死せり其息巧因末五歳之るは寺僧守貞寺

系乃古書室物諸ともよこれをもち小市とふる里は變居し  
 一が謙信乃信州を飲せし道に附改めて別府とふる石に寺と管  
 上坂景勝の附當國春日山の林麓又方百間の地と寄附ありて當寺と  
 爰又別後以極久を即當國飲知の附り又福崎へ移住せしが暫して  
 上坂飲地の附り今の此地へ移て方百間の境地を得たりと云  
 ○靈室九字名号 紺紙金泥 聖人御 上人御 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 六字名号 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 上官古子眞像 祖師聖人御 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像  
稲田の所の 御存る 蓮座御歌 親鸞上人名牒上人 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 二十一條制狀 祖師聖人御 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像  
眞書又名牒 上人とあり 法苑上人御眞歌御自畫 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 寺号の額 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像  
 ○川城名号 川城の名号の祖師聖人の 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 眞像 祖師聖人御府はまはし其附並江と  
 して石に老より夫婦のよりなり聖人の御教化を蒙り信心堅固也  
 乃ら一は乃は大場村の 或時叟一人國府へ系流しし其れは聖人の下城後へ  
 移りせ給りんとくもや唐室と出給り又叟御名跡を楷となり號と

と御眼をさせや度とく急ぎ立降り號よかくと造しうは號は  
 教にといふ小聖人のや御出唐持はまはししとや婆が兼て教ひ  
 なるなりとむし一は乃りて御眼をやらんとく聖人の御教と慕ひ  
 小俣川乃川城小別りしと聖人をや川と流り岸の上まをのかり  
 終入婆はけ方の岸はあまがく夢と揚げて御名跡と楷となり  
 是御記念のり名号と揚りしとと歩教きて終入まぞ聖人號が切  
 方の志と感じ終ひ仰らまらるる老女の身のいそや此川と流り奉  
 らん其一方を紙と披くは名号と書て得るはと宣ひつらふ  
 波の教び聖人の仰り後ひ懐中より一紙と出り川の向ひを推  
 ひらき聖人のましまは方よ向て終るは聖人其まき名と楷終ひ  
 てけ方よりとらくと一は乃の名号と書終るは不思議なるなりし  
 且は廣き川と城とい字の名号をまらるるくと終らせ終る老女を

川城の  
名号



奇異の思ひとめ、押載きく大地のひと休泰い歎びをうけ  
く御別と告げて立入り奉り終つて歎び物語り彼名号と  
拜せしむれば五体と地と投り歎ひの涙をひせり、よく  
歎びしころが年と歴て彼荒妻婦が子孫断絶し縁に仍て  
の靈室とあきり是と川流の名号と稱するなり。○此外聖人  
の御真骨數十粒、聖人御真身乃書蹟或は靈像靈骨  
聖人御所持の法具惣して數十品宝物と傳来せり

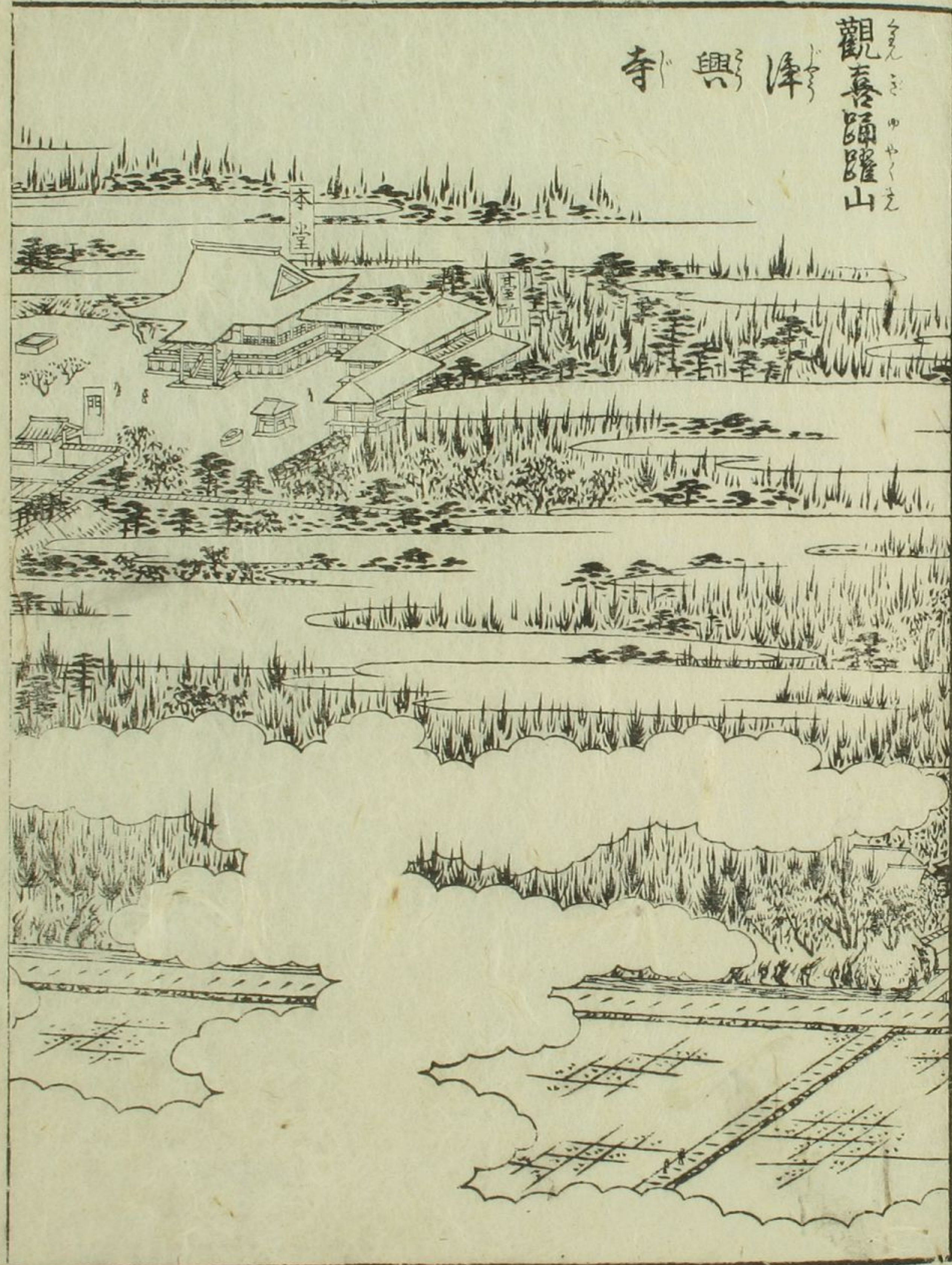
中戸山常敬寺 東流 日不寺町あり

當寺の西光院と名づく本堂九間に面する相好附阿彌陀如  
來の佛、塔次二區の御首高祖聖人の御直孫唯若上人閑  
閑りの道場唯若上人と申は親鸞聖人の御息女  
の御息男ありて御又の小持宮禪念坊の御種若惠上人御同胞

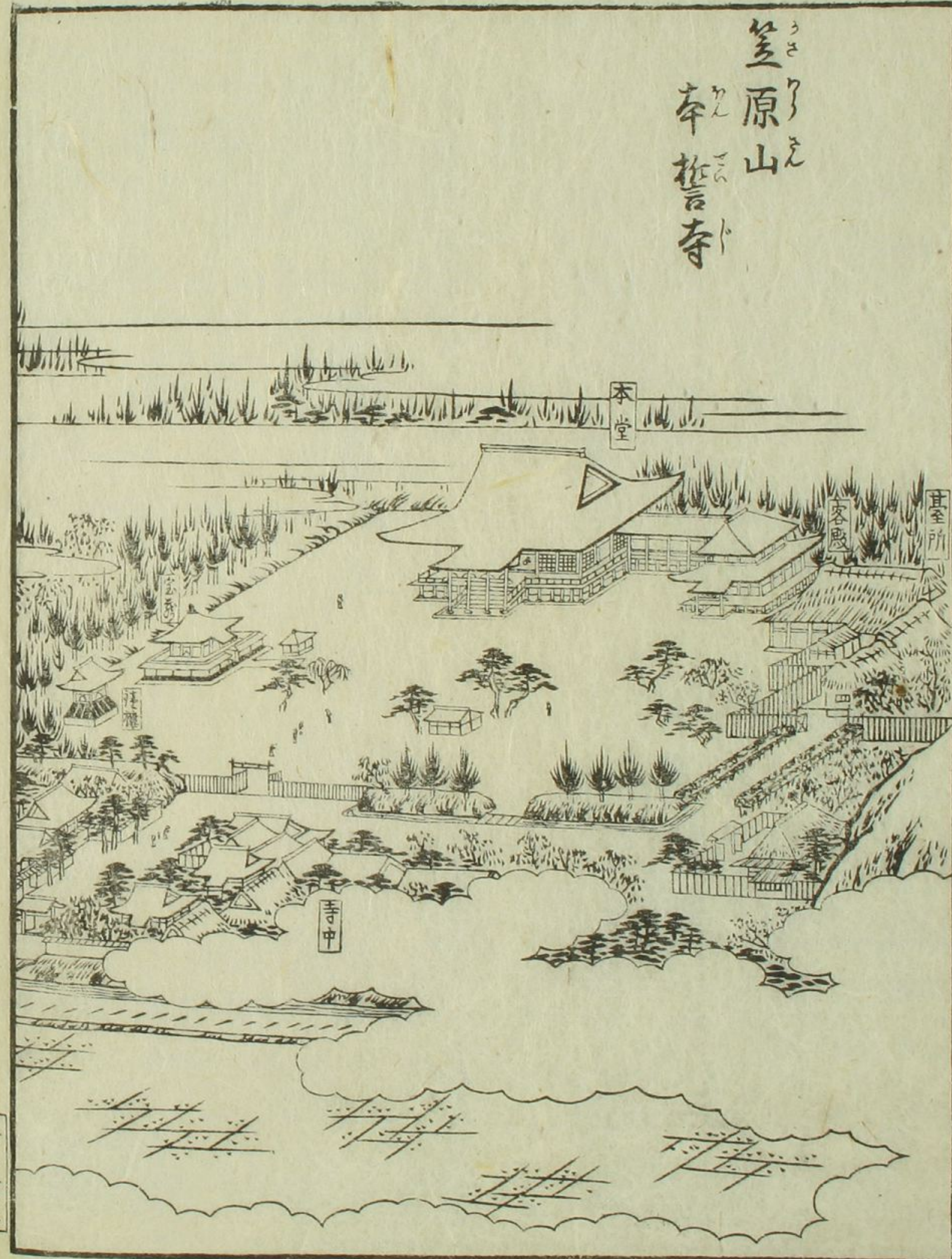
法を在免 信尼こ

より 若惠上人の御又の 日持廣細御あり 如信上人の大谷本願寺第二の御後職またち  
終へども奥州大綱教入寺又下向まゝして御化益ありたるより  
大谷御本願の覚惠唯若の両上人南小又任して守護し終へ  
惠上人の徳治二年に月十二日六十九歳にして入寂し終ひし  
より三年又當りて延慶二年の春唯若上人相州常盤と  
り下向りて教道し終へ 奉安くの教道終一期祀 慕取終詞多し又見也 于時鎌倉の軍  
惟康御唯若上人を法く終ひ度く聞法の益み終り  
終ひる後唯若上人閑閑に化益ありせ終りんとて御堂造營  
のりをぬ軍一言とありしは即お軍の御本位として下總の團  
閑閑に押して大伽藍と建立あり御の天子花園院(奏聞と遂は  
らる中戸山西光院と勅額を布賜りり示法専ら仕んかりり  
并に世若宗法師の御京都大谷御本願又遠背りり終りて

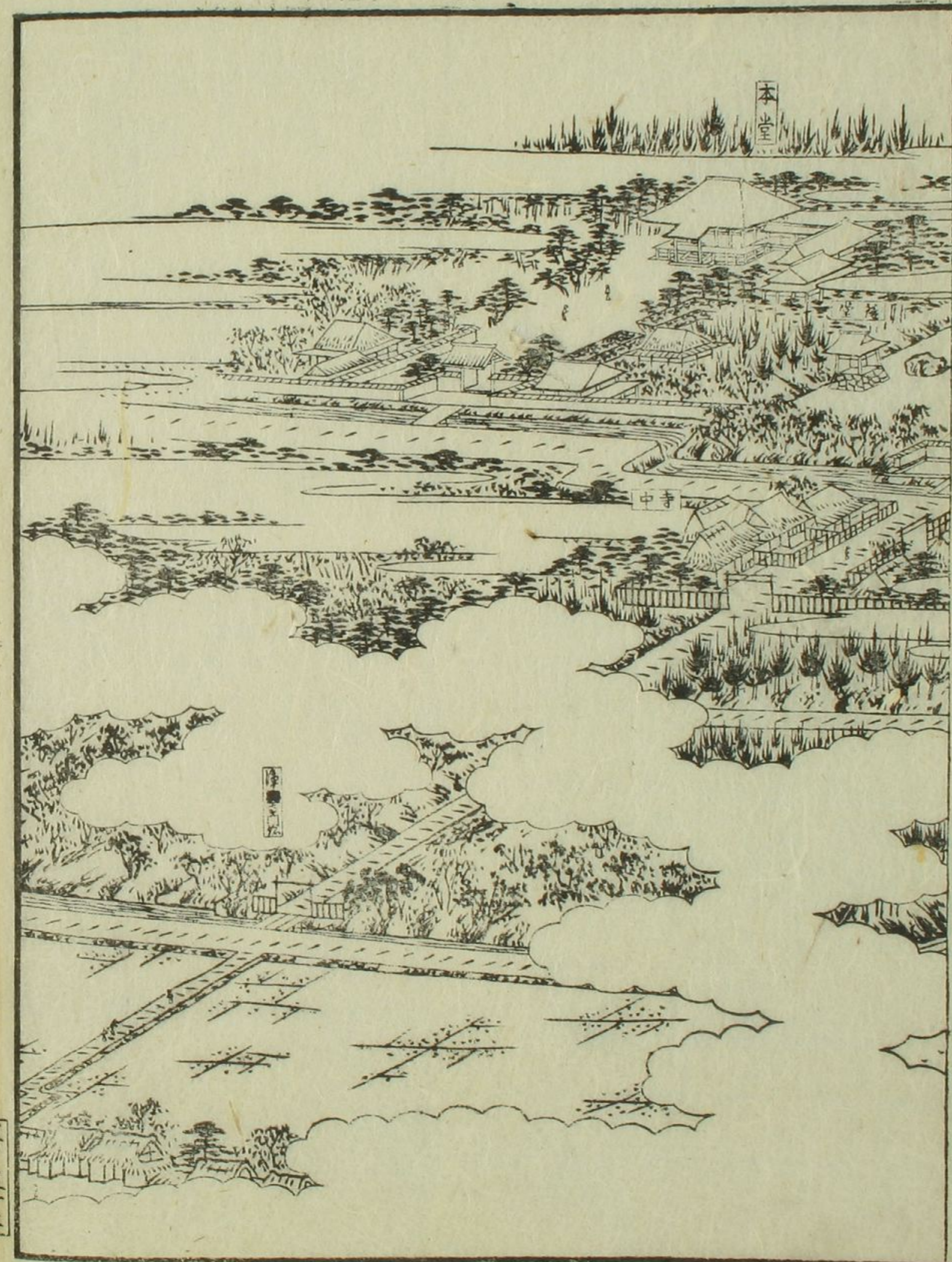
澤興寺  
觀喜踊躍山

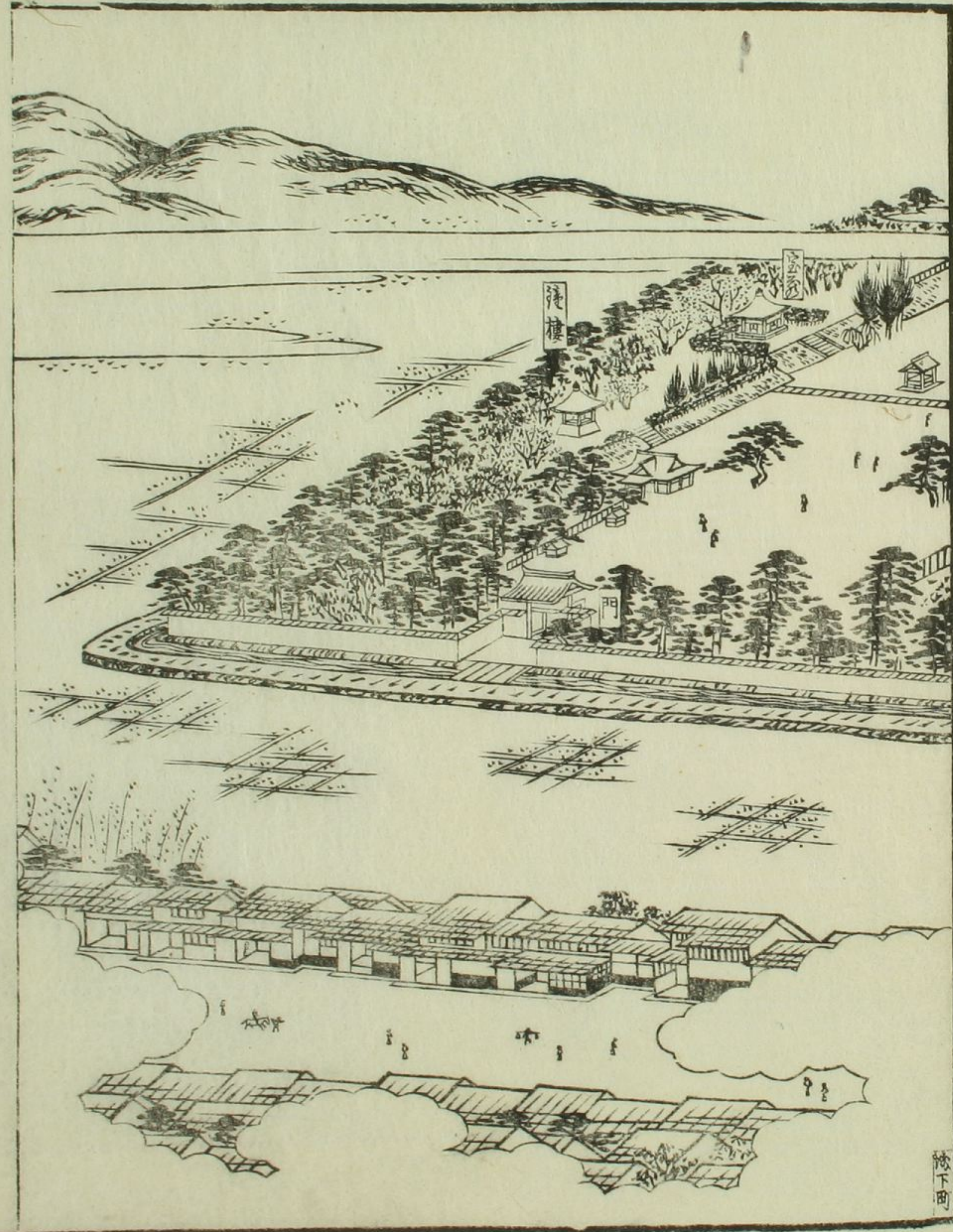


芝原山  
本誓寺

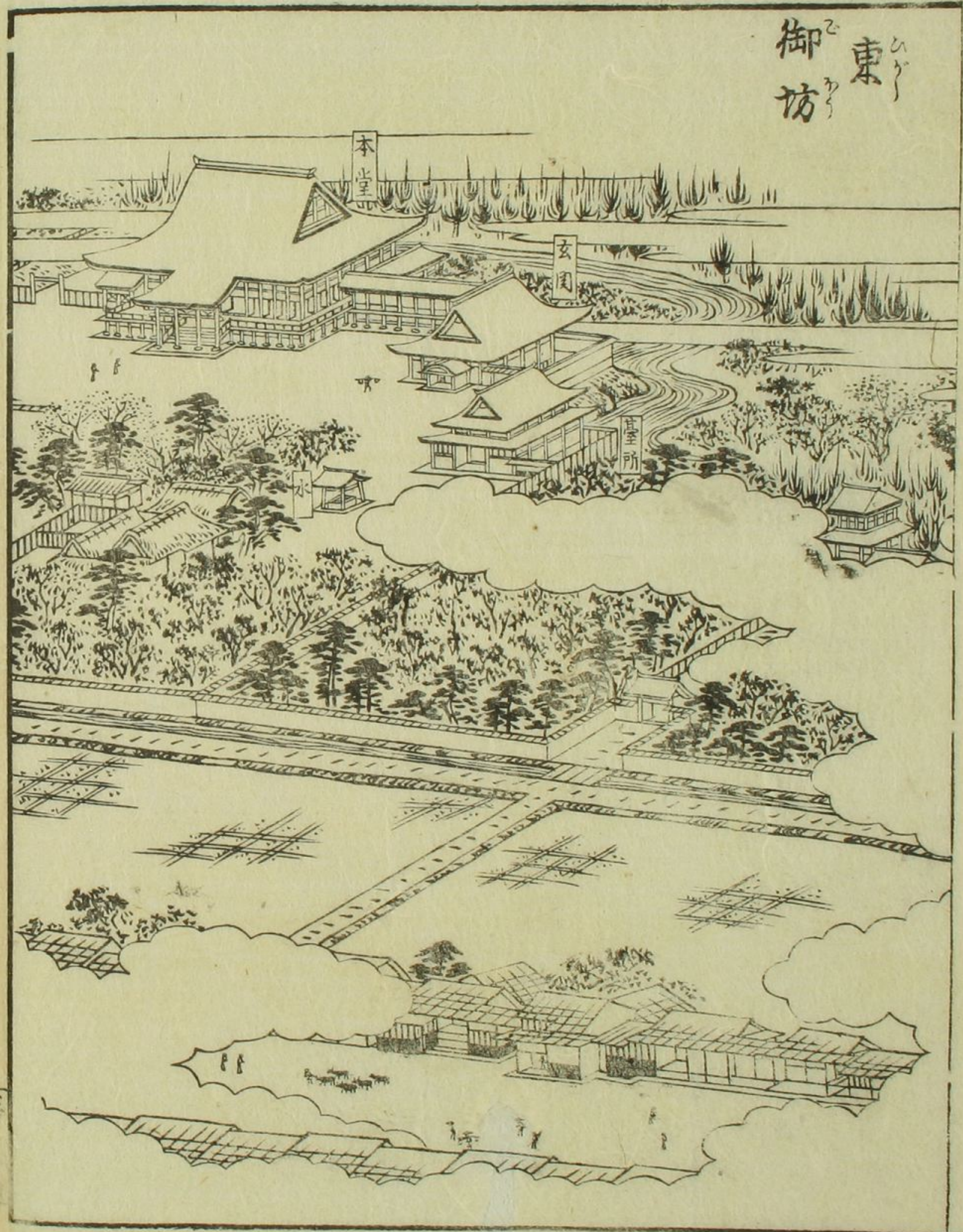


中戸山  
常敬寺



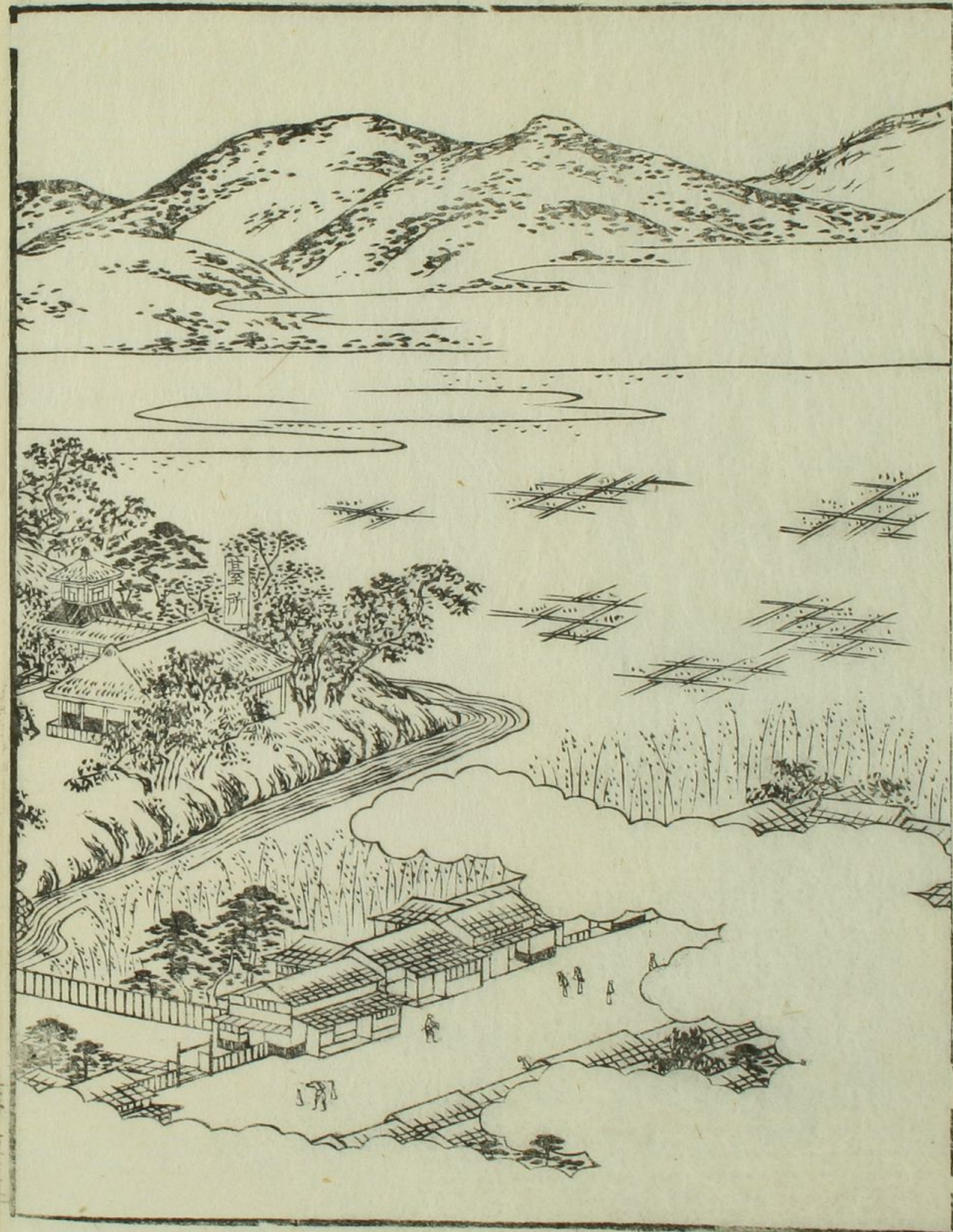
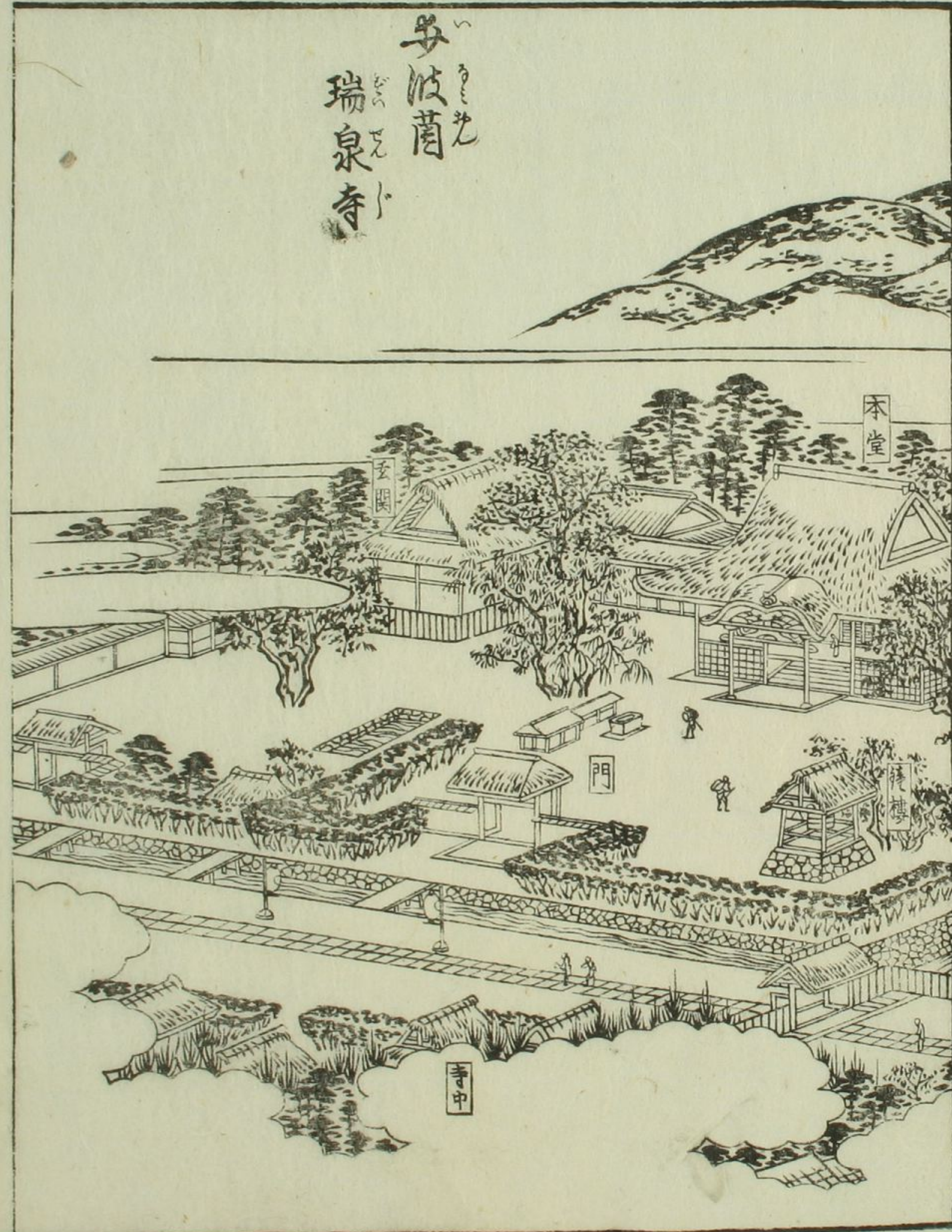


御坊 東





安波蘭  
瑞泉寺



第六世若狭守の附蓮如上人ノ飯飯（きんべん）て即蓮師（れんし）より常教寺（じょうきょうじ）と号  
と揚（たか）入其後代（そのちのち）とて天正（てんしやう）年中（ちゆうねん）當寺（たうじ）十世了照（りやうしやう）の附豊臣（とよとみ）秀吉  
と小糸家（こいへけ）と對陣（たいじん）の砌中戸山兵火（ちゆうとやまへい）の（ちゆうとやまへい）お小回（こまわい）福（ふく）及び（及び）是（こゝ）より  
て此（こゝ）に院（いん）と移（うつ）し今（いま）又（また）嗣法（しゆふ）相承（さうじやう）以（もつ）と云（い） 靈（れい）宝（ぼう）丸（まる）本（ほん）の阿弥（あみ）  
陀佛（だつぽつ） （聖徳太子十七歳の  
御伽（みだ）兼（かね）佛（ぶつ）と稱（なづ）） 簾（すだ）の名号（なごう） （聖人一〇三礼の御伽（みだ）より日本一區  
の多（おほ）像（ざう）之名（な）并（なら）不（ふ）離（り）の名号（なごう）より） 新羅王（しんらわう）  
中戸山の筆記（ちゆうとやまのひつぎ） 聖徳（せいとく）太子（たいし）の像（ざう） （聖人  
御伽（みだ）） 其外（そのほか）宝物（ほうぶつ）教（きやう）不（ふ）略（りやく）と

性宗寺 佛光寺流 日石より

當寺（たうじ）の高祖（かうそ）聖人（せいじん）御自畫（みまがひ）乃真像（まゐらざう）と安（あん）並（なら）せり是聖人（せいじん）三十八歳（さんじゅうはちさい）  
の御附（みまわ）の御真像（みまゐらざう）と云（い）や茶屋（ちやゑ）の因（いん）は御衣（みぎぬ）と云（い）れは御衣（みぎぬ）は  
て傍（かたわら）又（また）勅（ちやく）勘（かん）の御衣（みぎぬ）衣（い）と掛（か）後（ご）の御衣（みぎぬ）衣（い）と云（い）は南無阿弥陀佛（なんむあみだぶつ）於（お）  
城（じやう）後（ご）配（はい）所（じよ）美濃國（みのくに）府（ふ）畫（ゑ）之（の）義元（ぎげん）丁（てい）卯（みづうみ）年（ねん）五月（ごご）六（む）日（にち）善信（ぜんしん）と云（い）は

丹波園瑞泉寺

西流院家 日所春日町より

後小松院勅額所奉堂十六間（春日）に面（まへ）する 十七（しち）多（た）連座（れんざ）の御款（みぐわん）  
如信上（にがのうへ） 信（しん）中（ちゆう）にケ寺（じ） 經苑（きやうゑん）一區 寺系（じけい）は城（じやう）中（ちゆう）國（くに）瑞泉寺（ずいせんじ）日系（にちけい）は  
て奉教寺（ほうきやうじ）第五代（ごだい）綽（ちやく）如上人（じやうじゆん）御建（みたて）立（た）の引地（ひきち）と云（い）は當寺（たうじ）の磯部勝（いそべかつ）於（お）  
の別院（べつゐん）也（なり）と云（い）は是（こゝ）より傳（つた）へと先師（せんし）遺跡（いせき）福（ふく）又（また）記（き）と云（い）は

東流御坊 日所より

奉堂十三間に面

月原山明專寺

信濃國水内郡（しんぬくにすいないぐん）栢原（かしはら）よりあり 城（じやう）後（ご）園（えん）より田（で）より荒（あ）安（あん）松（しょう）園（えん）山（さん）二（に）獲（と）  
栢原（かしはら）八（はち）里（り）に在（あ）り石（いし）城（じやう）後（ご）と信濃（しんぬく）の境（さかい）に城（じやう）後（ご）より田（で）より信濃（しんぬく）

御舊蹟（みせうせき）の堀（ほり）祀（まつ）ひ信濃國（しんぬくに）の部（べ）と委（まか）せり是以下（こゝより）の寺院（じやういん）準（じゆん）之（の）

栢石山願法寺

栢原より二里半 日所日郡新井村より

善光寺

新井より三里 日所日郡より

布野長命寺

若光寺より一里  
日國日郡柳原庄南極あり

成田山西蔵寺

南極より三十丁  
を田庄長沼あり

平林山奉持言寺

長沼より五里半  
信州恒科郡若木庄松代あり

柴阿弥陀堂

松代より半里  
日國日郡芝村あり

白鳥山康樂寺

芝村より二里半  
日國日郡海津庄長沼南極村あり

大宝山正妙寺

東流  
陸崎より十二里  
日國海津郡府中松代あり

大宝山正妙寺

西流  
日國日郡日所あり

本曾山長稱寺

日國日所あり

○信州松本の城下より浦坂坂本戸倉を経て再び若光寺へ出て之の街  
道と城後の三田(りり)坂下城後を由り出羽團へ出り九城後の三  
田より信濃國若光寺へ姓末の里敷三十三里余又陸崎松代長沼南  
極の旧法を明釋とれは道法とては十六里あり  
○或は城後の長溪より三田(りり)坂下城後を経て溪邊とては又今所柿崎縣波拍崎  
出雲崎寺泊とて経て新設の別々新設田より津路の河川とて  
長園の城下信州川と流り除官方妙法寺村多とて再び拍崎へ  
出て夫より高田の城下を明釋とれは又信州へ越き松本より直  
に園東の方上野園へ入りありけり河川旧法とては又園の都  
委一記とるれは考へ合せんとすべし

